第2章

アンケート等による被害状況の把握と検討・考察

広域被害校へのアンケート用紙

東日本大震災に対する、学校としての対応についてお聞きします。回答は、すべて回答用紙にご記入ください。

［０］基本データ

１．学校のプロフィール

学校名　（　　）　記載者（　　）（職名　　）

学校所在地　（　　）（都道府県名）（　　）（市区名）

学校種　①高等学校　②中学校　③中等教育学校

④中学校・高等学校　⑤中高一貫校（併設・連携）　⑥小学校

課程（１）　①全日制　②定時制

課程（２）　①普通科　②職業科・専門学科（　　）

男女別　①共学校　②男子校　③女子校

④男女別学　⑤その他

在籍生徒数（　　）人

２．震災による物的被害の状況

(1)　建造物（校舎・体育館など）に被害がありましたか。

①　大いにあった　②　多少あった　③　なかった

(2)　施設備品などに被害がありましたか。

①　大いにあった　②　多少あった　③　なかった

(3)　①、②と答えた方、学校運営上、どのような支障がありましたか。

［１］地震発生直後の学校の対応についてお聞きします。

３．３月 11 日地震発生当日の学校の教育活動についてお聞きします。

(1)　当日の学校の教育活動ははどのようなものでしたか。（複数回答可）

①　平常授業　②　校外授業　③　学校行事

④　午前中・短縮授業　⑤　その他

(2)　(1)で③④と答えた方にお聞きします。具体的にどのような活動か、お答えください。

例：全体では平常授業だったが、中２はスキー教室だった

４．地震発生時の生徒の状況についてお聞きします。

(1)　地震発生時、学校内に生徒は何人くらいいましたか。

①　全校生徒がいた　（　　）人　②　一部の生徒がいた（　　）人

③　生徒はいなかった

(2)　②と答えた方、それはどのような活動をしていた生徒たちですか。（例：部活動、補習授業等）

５．地震発生時に生徒が校内にいた学校（４．(1)で①または②と答えた方）にお聞きします。

(1)　避難誘導はいかがでしたか。

①　大変スムーズにできた　②　ほぼスムーズにできた

③　あまりスムーズにできなかった　④　かなり混乱した

(2)　(1)で①、②と答えた方にお聞きします。スムーズにできた理由を具体的にお書きください。

(1)で③、④と答えた方にお聞きします。スムーズにいかなかったことや混乱したことはどんなことでしたか。

6．地震発生後の生徒の掌握（点呼・安否確認）について、お聞きします。下の(1)～(4)のそれぞれについて、学校がとった対応を具体的にご回答ください。

(1) 校内にいた生徒の点呼はどのようにされましたか。

例　避難場所に指定していたグランドに集めて、担任が点呼した。

(2) 帰宅途中の生徒がいた学校にお聞きします。

そうした生徒をどのように掌握しましたか。

(3) 学校以外での活動に参加していた生徒がいた学校にお聞きします。

校外活動中の生徒をどのように掌握しましたか。

(4) 帰宅していた生徒をどのように掌握しましたか。

7．地震対応のマニュアルについてお聞きします。

(1) マニュアルはありましたか。

① あった　　② マニュアルはなかった

(2) マニュアルのあった学校にお聞きします。そのマニュアルは役立ちましたか。

① 大変役に立った　　② あまり役に立たなかった

③ 役に立ったところと役に立たなかったところがあった

(3) (2)で①、③と答えた方にお聞きします。どのような点が役に立ちましたか。

(2)で②、③と答えた方にお聞きします。役に立たなかったのは、どのような点ですか。

どのような点を見直す必要があると思われましたか。

［２］震災の影響（交通機関やライフラインの途絶）に対する対応についてお聞きします。

8．外部の状況を掌握するのに役立った連絡通信手段の内、有効だったのはどれですか。回答欄の該当する項目に○をつけてください。（複数回答可）

9．震災の影響を受けた生徒にどう対応しましたか。

(1) 校内にいて帰宅困難になった生徒をどうしましたか。（複数回答可）

① 学校に宿泊させた　　② 保護者に引き取りに来てもらった

③ 地域別に教員が引率し、帰宅させた　　④ その他（　　）

(2-1) 帰宅途中の生徒はどうしましたか。（複数回答可）

① 自力で自宅に帰った　　② 学校に戻った

③ 保護者が出迎えた　　④ 友人宅に泊めてもらった

⑤ 最寄りの避難所に泊まった　　⑥ その他（　　）

(2-2) 帰宅途中の生徒に学校はどんな指示を出し、どう対応しましたか。

(3-1) 学校以外での活動に参加していた生徒はどうしましたか。（複数回答可）

① 自力で自宅に帰った　　② 学校に戻った

③ 保護者が出迎えた　　④ 友人宅に泊めてもらった

⑤ 最寄りの避難所に泊まった　　⑥その他（　　）

(3-2) 学校以外での活動の内容はどのようなものでしたか。（複数回答可）

① 部活動　　② 施設見学（工場など）

③ 修学旅行・林間教室・移動教室・スキー教室等学校行事　　④その他（　　）

(3-3) 学校以外での活動に参加していた生徒に学校はどんな指示を出し、どう対応しましたか。

10．地震当日、帰宅困難なため学校に宿泊した人数をお書きください。

① 生徒（　　）人　　② 教職員（　　）人　　③ 保護者（　　）人

④ その他（出入り業者・保護者・近隣住民・他校生など）（　　）人

11. 保護者との連絡手段についてお聞きします。
(1) 学校の主要連絡（情報発信）手段は下記のどれでしたか。(複数回答可)
① 電話連絡網　② メール連絡網　③ 学校のホームページ
④ 緊急時一斉配信メール　⑤ 災害時緊急連絡放送（ニッポン放送等）
⑥ その他（　　）
(2) 学校の連絡手段は有効でしたか。
① 有効だった　② 役立たなかった
(3) (2)で「②役立たなかった」と回答された学校にお聞きします。
どのように役立たず、それに対しどのような代替連絡手段をとられましたか。

12. 学校のライフライン（水・電気・ガス）の被害についてお聞きします。
(1) 学校のライフラインは機能していましたか。
① すべて機能していた　② 一部（水道・電気・ガス）が止まった
(2) (1)で②と答えた方、何がどのくらいの間止まり、それにどう対応しましたか。

13. 学校には震災に対応するためにどのようなものが備蓄されていましたか。
(1) 回答欄にあげられている項目のうち、備蓄されていたものに、○をつけてください。とくに役に立ったものには◎をつけてください。(複数回答可)
(2) 無くて困ったものは何ですか。
(3) 備蓄品のうち、とくに水と食料と寝具の備蓄量は十分でしたか。
①十分だった　②十分でなかった

14. 震災時の教員の組織・協力体制について。
(1) 教員の組織・協力体制は，どうでしたか。
① 円滑にいった
② 震災という非常時のため教員の組織・協力体制はうまく機能しなかった
③ 円滑にいったところと、うまくいかなかったところがあった
(2) それはどうしてですか。

15. 震災後の心のケアについてお聞きします。
(1) 震災の影響を受けて、精神面で不安定になった生徒がいましたか。
①いた　②いない
(2) ①と答えた方、具体的にどのような症状(様子)でしたか。
(3) ①と答えた方、それに対して、誰がどのような対応をしましたか。
(4) 生徒全体に対して、メンタル・ヘルスの分野で対応されたことはありましたか。
①ある　②ない
(5) ①と答えた方、どのような対応でしたか。

［３］その後の対応について、お聞きします。

16. 震災を承けて、学校行事予定の延期・中止・変更はありましたか。
(1) 学校行事予定の延期・中止・変更等はありましたか。
①あった　②なかった
(2) (1)で「①（あった)」と答えた方にお聞きします。回答欄の該当する行事変更に○をつけてください。
(3) (1)で「①（あった)」と答えた方に、学校再開に向けた動きについて、お聞きします。
(3-1) 最初の登校日はいつでしたか。　（　　月　　日）
(3-2) それはどのような判断から決めましたか。(例：通学安全の確保　保護者の反応等)
(3-3) 平常日程への復帰はいつでしたか。　（　　月　　日）
(3-4) それはどのような判断から決めましたか。
(3-5) 授業日数の確保のために、どのような対応をしましたか。

17. 原発事故の影響についてお聞きします。

(1) 原発事故の影響はありましたか。

① あった　　② なかった

(2) (1)で「①あった」と答えた方にお聞きします。どのような影響がありましたか。具体的にお書きください。

(3) (1)で「①あった」と答えた方にお聞きします。それに対して、どのような対応をしましたか。

［4］今後の対応について

18. 震災の影響や今後起こりうる災害について、学校として考えている対応について。

(1) 以下の中から該当するものをお選びください。(複数回答可)

① 生徒の安否確認の方法の改善
② 連絡通信手段の改善（情報収集・発信）
③ 保護者への連絡・引き渡し手順の改善
④ 防災マニュアルの見直し
⑤ 防災委員会などの設置
⑥ 教職員の連絡・招集体制の見直し
⑦ 防災対応等の教員の研修
⑧ 備蓄品（水・食糧・寝具等）の種類・量の見直し
⑨ 救急体制の拡充（保健室ベット数など施設整備、救急薬品・備品の充実等）
⑩ 災害についての安全教育の徹底
⑪ 生徒・教職員の心のケア
⑫ 外部機関（自治体・医療機関など）との連携
⑬ 被災建物施設の再建・補修とその資金的見通し
⑭ 生徒募集への影響の評価とその対策
⑮ その他（　　）

(2) (1)で回答した項目のうち、とくに重要と思われるものについて、詳しくお書きください。

19. 震災発生時およびその後の学校としての組織的対応、指揮系統などについてお聞きします。

学校によっては、校長不在などで指揮系統などに混乱が生じたところもあった、あるいは防災担当など校務分掌があらかじめ決められていたが、地震発生時、他の用事で当該教員がおらず、機能しなかったなどの事例を聞き及んでいます。震災発生当日およびその後の、学校としての組織的対応、指揮系統などはいかがでしたか。どなたが震災対応の実質的リーダーシップを取りましたか。改善策はありますか。

20. 学校としての被災地への支援活動などについてお聞きします。

姉妹校・提携校に支援物資や生徒のメッセージを送った、あるいは生徒が自発的にボランティア活動などをしたなど、支援の取り組みの事例がありましたら、お書きください。また学校として支援についての指導方針などありましたら、それもお書きください。

21. 震災を承けて、地震の仕組みやそれに対する災害対策など、防災教育の充実が求められています。具体的な取り組みがありましたら、お書きください。

22. 大震災発生以来7ヵ月余りを経過した今、当時を振り返って反省すべき点、また防災教育や危機管理の面で、今後の課題や教訓としたい事がありましたら、ご記入ください。

23. その他、特に記述しておきたい事、訴えたいことがございましたら、ご自由にご記入ください。

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

震災時の学校対応の在り方に関する調査アンケート回答用紙

学校名		記載者	（職名）

［0］

1	都県名					市区名		
	学校種		課程(1)		課程(2)		その他	在籍数　　人
	男女別							
2	(1)		(2)		(3)			

［1］

3	(1)		(2)	
4	(1)	①（　　）人　②（　　）人		
	(2)			
5	(1)		(2)	
6	(1)			
	(2)			
	(3)			
	(4)			
7	(1)		(2)	(3)

［2］

8	① テレビ　② ラジオ　③ インターネット　④ 携帯電話のメール ⑤ ツィッター　⑥フェイスブック　⑦固定電話　⑧ 携帯電話　⑨ 公衆電話 ⑩ 緊急電話　⑪ その他（　　）			
9	(1)	（　　）	(2-1)	（　　）
	(2-2)			
	(3-1)	（　　）	(3-2)	（　　）
	(3-3)			
10	①　　人	②　　人	③　　人	④　　人
11	(1)	（　　）	(2)	
	(3)			
12	(1)		(2)	
13	(1)	① 水　② 食料（ a．カンパン　b．アルファー米　c．その他 ） ③ 寝具（a．毛布　b．レスキューシート　c．寝袋　d．マット　e．その他 ） ④ 防寒具　⑤ 簡易トイレ　⑥ 浄水器　⑦ ハンドマイク ⑧ ヘルメット　⑨ 防災ずきん　⑩ ジャッキ　⑪ 担架 ⑫ カセットコンロ　⑬ トランシーバー　⑭ 懐中電灯　⑮ 笛 ⑯ 非常用電源　⑰ その他（　　）		
	(2)		(3)	
14	(1)		(2)	
15	(1)		(2)	
	(3)			
	(4)		(5)	

［3］

16	(1)			
	(2)	① 平常授業を（ a 短縮・b 延期・c 中止 ）した ② 学年末試験を延期した ③ 入学者説明会を（ a 延期・b 中止 ）した ④ 卒業式を（ a 延期・b 中止 ）した ⑤ 終業式を（ a 延期・b 中止 ）した ⑥ 修学旅行等学外行事を（ a 延期・b 中止 ）した ⑦ 春休み中、学校を（ a 閉鎖 b 登校禁止 c 部活動中止 ）にした ⑧ 入学式を（ a 延期・b 中止 ）した ⑨ 入学式を（ a 延期・b 中止 ）した ⑩ 体育祭（運動会）・学園祭（文化祭）等を（ a 延期・b 中止 ）した ⑪ その他（ ）		
	(3-1)	月 日	(3-2)	
	(3-3)	月 日	(3-4)	
	(3-5)			
17	(1)		(2)	
	(3)			

［4］

18	(1)	
	(2)	

19	
20	
21	
22	
23	

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

広域被害校へのアンケート集計結果および考察

［０］基本データ

１．学校のプロフィール

学校種　① 高等学校…… 210校　② 中学校……14校
③ 中等教育学校……４校　④ 中学校・高等学校… 152校
⑤ 中高一貫校（併設・連携）77校　⑥ 小学校……68校
総計…… 525校

課程(1)　全日制… 457校　定時制……４校　広域通信制……１校
通信制……10校　特別支援学校…２校　特別支援高等学校…１校
無回答……50校　総計…… 525校

課程(2)　普通科…383校　職業科・専門学科…11校
普通科・職業科・専門学科…66校　音楽科…１校　総合学科…１校
知的障碍特別支援学校…１校　本科保健・専攻理療科…１校
無回答……61校　総計…… 525校

男女別　① 共学校… 334校　② 男子校…55校　③ 女子校… 125校
④ 男女別学…９校　⑤ その他（共学校と女子校）…… １校
無回答……１校　総計…… 525校

２．震災による物的被害の状況

(1) 建造物（校舎・体育館など）に被害がありましたか。
① 大いにあった…12校　② 多少あった… 184校　③ なかった… 328校
無回答……１校　総計…… 525校

(2) 施設備品などに被害がありましたか。
① 大いにあった…５校　② 多少あった… 142校　③ なかった… 371校
無回答……７校　総計…… 525校

(3) ①、②と答えた方、学校運営上、どのような支障がありましたか。
建物の簡易診断のため一時閉鎖、破損物の撤去までの施設の使用中止、講堂が使用不能、ヒビの入った壁の補習、理科実験室の備品破損・コンピュータ室のパソコン落下破損、美術室のガラス破損などのため、
・立ち入り禁止区域を設定・使用中止
・生徒登校の停止

・終業式・卒業式・入学式など式典運営に支障
・朝礼集会・中学生の体験入学・バザー等の文化行事等行事に支障
・体育や理科・情報などの授業で支障
・クラブ活動の制限・中止
・春季講習の取りやめ
・教務日程の修正
などの支障があったとしているところが多かった。

［１］地震発生直後の学校の対応についてお聞きします。

３．３月11日地震発生当日の学校の教育活動についてお聞きします。

(1) 当日の学校の教育活動ははどのようなものでしたか。（複数回答可）

① 平常授業…… 101校　② 校外授業……１校
③ 学校行事……57校　④ 午前中・短縮授業… 132校
⑤ その他…… 182校　①と②と③ ……１校
①と③ ……７校　①と③と④ ……１校
①と④ ……２校　①と⑤ ……３校
②と③ ……１校　②と④ ……３校
②と④と⑤ ……１校　②と⑤ ……１校
③と④ ……13校　③と⑤ ……12校
④と② ……１校　④と⑤ ……１校
⑤と③ ……１校
無回答……４校　総計…… 525校

(2) (1)で③④と答えた方にお聞きします。具体的にどのような活動か、お答えください。

③ 学校行事

＜ 行　事 ＞
合唱祭、球技大会、総合学習に関するアンケート実施中　など

＜校外行事＞
校外学習中、スキー教室、遠足、特定学年が修学旅行、海外研修旅行　など

④ 午前中・短縮授業
短縮授業で放課後だった、学年末試験、模擬試験、試験最終日、追試、補習、答案返却、卒業式準備、卒業式、送別会、歓送会、卒業制作、大掃除、新入生オリエンテーション、教職員の会議（成績判定会議等）で生徒は下校、保護者面談日、保護者会
など

4．地震発生時の生徒の状況についてお聞きします。

(1) 地震発生時、学校内に生徒は何人くらいいましたか。

① 全校生徒がいた……82校　② 一部の生徒がいた… 392校

③ 生徒はいなかった……46校　①と② ……２校

無回答……３校　総計…… 525校

(2) ②と答えた方、それはどのような活動をしていた生徒たちですか。

＜考察＞

地震が発生した３月11日午後２時46分という日は、学校の教育活動に多様性をもたらしていた。

平常授業の学校ばかりでなく、

３年生などが卒業式を済ませて、学校にいなかった。ただ、大学受験などで地方に分散し、その安否確認を課題とした学校もあった。

学年末の試験中または、その後の採点期間に入っていて、休業または午前中授業で、午後は部活動というところもあった。

あるいはスキー教室、施設見学など多様な学校行事が組まれていた。学校行事や施設見学などで校外に出ている生徒も多くおり、さらに、それが学年ごとに異なっていることもあって、学校内にいる生徒数が、通常と違い、かつ多様であるため、生徒掌握、安否確認に一層の困難と混乱をもたらしたといえる。

＜阪神淡路大震災との比較＞

阪神淡路大震災は早朝という時間帯のために、まだ登校していなかった。

生徒の安否確認は、当時はインターネットや携帯はまだ普及していなかった。

5．地震発生時に生徒が校内にいた学校（4．(1)で①または②と答えた方）にお聞きします。

(1) 避難誘導はいかがでしたか。

① 大変スムーズにできた…… 144校　② ほぼスムーズにできた… 246校

③ あまりスムーズにできなかった…15校　④ かなり混乱した……３校

無回答…… 116校　総計…… 525校

とあるように、校内にいた児童生徒の避難誘導は、概ねスムーズにいったようである。

(2) (1)で①、②と答えた方にお聞きします。スムーズにできた理由を具体的にお書きください。

スムーズにいった理由として多く、挙げているのは

・校内にいた生徒・児童数が少なく、教員の数が多かったこと

・日頃の避難訓練の成果が出たこと

・直ちに放送で指示を出すなどの的確な指示や対応

(1)で③、④と答えた方にお聞きします。スムーズにいかなかったことや混乱したことはどんなことでしたか。

・平常授業時のようにクラス毎にまとまっているわけではなく、部活などで校舎内のあちこちに分散していた。

・複数箇所から矛盾した指示が出て混乱した。

などが挙げられた。

6．地震発生後の生徒の掌握（点呼・安否確認）について、お聞きします。下の(1)～(4)のそれぞれについて、学校がとった対応を具体的にご回答ください。

(1) 校内にいた生徒の点呼はどのようにされましたか。

ほとんどの学校が、あらかじめ指定していた避難場所に生徒を集合させ、担任やクラブ顧問などが、点呼をとっていた。

(2) 帰宅途中の生徒がいた学校にお聞きします。　回答数……282校

そうした生徒をどのように掌握しましたか。

・（該当生徒はいなかったので）特に掌握していない ……48校
・家庭と（主に）電話で連絡をとった……48校
・最寄り駅に教員を派遣し、状況を確認したり、学校に戻るよう指示した……46校
・すぐには掌握できなかった(後日確認も含む)……40校
・駅にいた生徒が自主的に戻ってきたので、点呼した……27校
・生徒や保護者と携帯やメールで連絡を取った……22校
・一斉メール配信（し、折り返し返信するよう指示）した……22校
・学校に戻るよう指示した(メールや携帯で)……９校
・部活の顧問が連絡を取り、掌握した……７校
・帰宅した時点で、折り返し学校に連絡させた……３校
・スクールバスの運行中であったので、その場で掌握できた……３校
・直接の掌握が不可能なため、校内にいる生徒氏名をＨＰに掲出し、各家庭での確認ができる状態を作った……４校

その他

・学校独自の伝言板(メール機能)で確認した……１校
・卒業生が見かけて、最寄りの避難所に連れて行ってくれた……１校
・自宅に送り届けたり、迎えに来てもらった……１校

(3) 学校以外での活動に参加していた生徒がいた学校にお聞きします。

校外活動中の生徒をどのように掌握しましたか。

校外で活動中の場合、部活顧問や引率教員がおり、それらの教員が掌握した。

(4) 帰宅していた生徒をどのように掌握しましたか。　回答数……269校

・電話(網)やメール（網)での確認(通じなかったりして、かなり時間がかかったことをつけ加えるところもあった）……85校

・(学校に来ない日や時間的に明らかに帰宅しているはずなので)
とくにしなかった……68校
・当日は繋がりにくかったので、後日確認した……32校
・当日は連絡手段が途絶えたり、繋がりにくく、できなかった……28校
・緊急時一斉メールを配信した。(さらに一部には帰宅している生徒には、
学校へ連絡するよう指示したところもあった) ……28校
・保護者からの連絡を待った……17校
・ＨＰに在校生徒の名簿を載せたが、保護者からの問い合わせが
なかったので、帰宅できたと認識した……５校
その他……６校
・クラブ顧問が確認
・モバイルメールを利用した。開封通知のない家庭には電話連絡をした
・学校独自に実施している掲示伝言板＜メール機能＞にて、生徒の保護者及び
生徒と連絡をとり確認
・メール（メルポコ)
・家庭と連絡をとり、すでに自宅に着いている者、ＧＰＳでバス・電車に乗車と
との情報を得ることができた。夕方近くには全員自宅に着いたとの報告を得た。
・電車に乗車直後地震で、駅で降ろされた児童は迎えの保護者と一時避難所で待
機。スクールバスにより、迎えて学校に戻した。または卒業生が徒歩で学校に送った。

７．地震対応のマニュアルについてお聞きします。

(1) マニュアルはありましたか。
① あった…… 369校　② マニュアルはなかった…… 147校
無回答……９校　総計…… 525校

(2) マニュアルのあった学校にお聞きします。そのマニュアルは役立ちましたか。
① 大変役に立った……93校　② あまり役に立たなかった……89校
③ 役に立ったところと役に立たなかったところがあっった…… 173校
無回答…… 170校　総計…… 525校

(3) (2)で①、③と答えた方にお聞きします。どのような点が役に立ちましたか。
(2)で②、③と答えた方にお聞きします。役に立たなかったのは、どのような点ですか。
どのような点を見直す必要があると思われましたか。

役に立った点

「避難誘導・点呼・安全確保がスムーズだったこと」を挙げている学校が多数だった。
他に、
「緊急時の行動を定めてあったため、教員が役割分担通り目的を持って迅速な行動ができた」
「災害発生時の状況判断や冷静で適切な対応ができた」
「生徒の引き渡しも保護者にあらかじめ説明してあり円滑にいった」

「地震防災計画に基づく訓練を日頃から行い、手順が整理されていた」

などが挙げられている。

役に立たなかった点

「避難訓練の想定を超えていた」

「マニュアルより、現場でのとっさの判断、臨機応変の措置が必要だった」

などが多く挙げられていた。

具体的には、

「火災を想定したマニュアルで、地震までは想定していなかった」

「教員が少なくマニュアルの役割分担通りの対応が出来なかった」

「マニュアルには生徒・教員が帰宅不能になった場合の対応が含まれていなかった」

「停電や通信不能まで想定していなかった」「状況把握が困難だった」

「保護者への連絡が困難だった」

「全校生徒が学校にいる時しか想定していなかった」

「下校途中の生徒・児童の掌握について考えていなかった」

「毛布・水など備蓄品がなかった」

「備蓄倉庫の鍵が周知されていなかった」

「生徒・児童の引き渡しが定められていなかった」

「教員がマニュアルを把握していなかった」

「指示系統が混乱した。全体と異なる別の指示を出してしまった」

見直すべき点

「地震対応のマニュアルづくり」

「情報通信手段がなくなった時の対応」

「保護者への連絡」「情報収集」

「生徒が分散している時の対応」

「下校途中の児童・生徒への対応」

「宿泊の想定」や「備蓄準備の充実」

「教員への周知徹底」

「指示系統の見直し」

などが挙げられた。

［２］震災の影響（交通機関やライフラインの途絶）に対する対応についてお聞きします。

８．外部の状況を掌握するのに役立った連絡通信手段の内、有効だったのはどれですか。回答欄の該当する項目に○をつけてください。（複数回答可）

① テレビ…… 519校　② ラジオ……19校　③ インターネット…30校

④ 携帯電話のメール…16校　⑤ ツイッター…３校　⑥ フェイスブック…０校

⑦ 固定電話……15校　⑧ 携帯電話……12校　⑨ 公衆電話……７校

⑩ 緊急電話……７校　⑪ その他……０校

9．震災の影響を受けた生徒にどう対応しましたか。

(1) 校内にいて帰宅困難になった生徒をどうしましたか。(複数回答可)

① 学校に宿泊させた… 296校　② 保護者に引き取りに来てもらった… 362校
③ 地域別に教員が引率し、帰宅させた…… 114校　④ その他……48校
無回答……73校

(2-1) 帰宅途中の生徒はどうしましたか。(複数回答可)

① 自力で自宅に帰った…… 318校　② 学校に戻った…… 241校
③ 保護者が出迎えた…… 180校　④ 友人宅に泊めてもらった…78校
⑤ 最寄りの避難所に泊まった…33校　⑥ その他……21校
無回答…… 144校

(2-2) 帰宅途中の生徒に学校はどんな指示を出し、どう対応しましたか。

(例)

・問い合わせのあった一部の生徒のみに対応
・学校に戻れる生徒は戻るよう指示
・最寄り駅に教員が迎えに行き学校に戻るよう指示
・保護者と連絡するよう指示
・一番近いところ（家・学校・知り合い等）を目指すよう指示
・子供安全網を利用し、安全に留意し帰宅するよう指示
・把握できない生徒についてはホームページで保護者に子供の把握を依頼
・連絡できないので、保護者に帰宅した場合(帰宅しなかった場合)学校に連絡するよう依頼
・連絡がつかないので、生徒の判断にゆだねる
・指示は不可能だったので、後日家庭に確認

(3-1) 学校以外での活動に参加していた生徒はどうしましたか。(複数回答可)

① 自力で自宅に帰った…… 118校　② 学校に戻った……78校
③ 保護者が出迎えた……81校　④ 友人宅に泊めてもらった…23校
⑤ 最寄りの避難所に泊まった…23校　⑥ その他……57校
無回答…… 319校

(3-2) 学校以外での活動の内容はどのようなものでしたか。(複数回答可)

① 部活動…… 127校　② 施設見学（工場など）…… 5校
③ 修学旅行・林間教室・移動教室・スキー教室等学校行事……32校
④ その他……26校　無回答…… 345校

(3-3) 学校以外での活動に参加していた生徒に学校はどんな指示を出し、どう対応しましたか。

(例)・引率教員と連絡を取り、相談
・生徒を、学校に戻る、自力で帰宅できる、保護者に迎えに来てもらえる、現地に留まる(含む最寄り避難所)、担当教師が送り届けるなど、ケースに応じて安全確認の上、判断・指示

・保護者と連絡を取らせる
・車で送り届ける
・外国からの帰国途中の場合、バスチャーター、帰宅経路の確認
・遠隔地（カナダ・シンガポール・沖縄）などの場合、状況を説明、待機させる
・連絡がつかず、現地引率教員の判断に任せる
・連絡がつかず、ホームページなどで学校の状況を報告、保護者に児童生徒の把握を呼びかける

10. 地震当日、帰宅困難なため学校に宿泊した人数をお書きください。

① 生徒（　　）人　② 教職員（　　）人　③ 保護者（　　）人
④ その他（出入り業者・保護者・近隣住民・他校生など）（　　）人

	学校数	延べ人数
① 生　徒	２２０ 校	２２，３０３ 人
② 教職員	２２９ 校	４，６７９ 人
③ 保護者	２７ 校	１８９ 人
④ その他	６５ 校	４７５ 人

11. 保護者との連絡手段についてお聞きします。

(1) 学校の主要連絡（情報発信）手段は下記のどれでしたか。（複数回答可）
① 電話連絡網…… 243校　② メール連絡網…… 116校
③ 学校のホームページ…… 287校　④ 緊急時一斉配信メール…… 194校
⑤ 災害時緊急連絡放送（ニッポン放送等）…49校　⑥ その他……44校
無回答……33校

(2) 学校の連絡手段は有効でしたか。
① 有効だった…… 351校　② 役立たなかった…93校　①と② ……３校
無回答……78校　総計…… 525校

(3) (2)で「②役立たなかった」と回答された学校にお聞きします。
どのように役立たず、それに対しどのような代替連絡手段をとられましたか。

＜分析・分類＞　複数の項目に亘る記述はそれぞれでカウントした。
停電……18校
電話連絡、ホームページ　一斉メール配信など基本的な連絡通信手段が使えなかった。
せっかくサーバーを遠隔地においたのに、その地域が停電でダウンし、使えなかった。
など
代替連絡手段
停電については、教員個人所有のノートパソコンなどのバッテリーの生きている間に

ホームページにアップした。

電話・携帯の不通だったり、つながりにくかった……46校

固定電話、携帯電話ともに不通になっていたり、回線がパンク状態で、繋がりにくかったり、混線などの状態が続いた。

代替連絡手段

電話が不通であったり、繋がりにくいことに対しては、時間をおいて復旧したり、繋がりにくい状況が改善してから連絡した。

公衆電話が使用できたので、それを使った。

比較的生きて　いた固定電話や、生徒個々人の携帯を活用した。

災害時の緊急電話を使ったが、台数が少なかった。

こちらからは連絡できず、保護者からかかってくる電話のみの応対をした。など

メール……15校

携帯、パソコンともに、メールの送受信ができなかったり、つながりにくかったりした。学校の独自のメール連絡網を整備していたところも、このため、機能しなかったり、送信しても、保護者に届かなかったり、届くまでに時間がかかった。

代替連絡手段

ホームページに「残留している生徒の名前」を載せた。

地元のテレビ局に情報を流してもらった。

ツイッターを使用した。……２校

緊急時一斉メール配信……10校

役に立ったと答える学校も多かったが、契約会社によっては、保護者の一部に届かなかったり、届くのが遅かったりした。

災害時緊急連絡放送（ラジオ）……１校

聞いている保護者は若干名しかいなかった

その他…７校

連絡手段は特定せず、正常に機能していないとした学校は３校あった。また、外部からの情報がはいらず、その結果、誤った連絡はできないとした学校が１校、いわゆる「個人情報保護」のため、連絡網が整備されていなかったり、メールアドレスの登録していなかったとした学校　が２校あった。

「記述なし」および「特になし」……９校

＜［４］今後の対応について　18. 震災の影響や今後起こりうる災害について、学校として考えている対応について」より、連絡手段についての記述＞

◆私学は多方面及び遠方からの通学があるので、登下校中の生徒の把握が難しい。また保護者も同様の思いであったので、登下校中万が一のために携帯電話を親の判断で持たせて良いことにした。

◆生徒の安否確認の方法の改善について。登下校の者の確認が可能か否か大変難しいと思われる。学校にまだ近い者については学校へ戻ることを第一とすべきということや、家族との連絡が取れない場合は、学校へ生徒をとどめさせることが必要と考えられる。その際の備蓄品の増量も早急に検討対応しなければならない。

◆保護者への現状の発信方法について、本校は電話連絡を第一としていたので、他の手段との併用を検討。

◆電話がつながりにくい状況があったので、メールやホームページの活用、テレビやラジオでの情報発信が必要と思われる。

◆一斉メールを導入した。保護者・生徒への連絡の徹底ができる様になった。

◆ほどんど電化だと、ライフラインが止まった時、対応できない。万一を想定してそろえておく必要がある。

◆連絡手段の改善については、学校だけではなく、社会全体の問題。今回の震災時は、携帯も固定電話も不通だった。停電時はネットもテレビも使用できない。情報の収集発信もできない。カラーテレビや携帯ワンセグ、ラジオしかなかった。電源の確保が課題。

＜上記の分析・分類の根拠となる記述データ＞

① 停電で連絡できない……18校

ホームページの更新ができない……２校　インターネットが使えない……１校
サーバーダウン（遠隔地においたのにそこが停電してダウン）……１校
電話連絡網…２校　一斉メール配信…２校　学校緊急電話が使えない…１校
繋がらずアクセスできない……１校

② 電話・携帯の不通またはつながりにくい…44校

固定電話…８校　携帯電話…６校　回線パンク状態…６校
混線してつながらない……１校　電話連絡網不通……２校

③メール……15校

携帯メール……１校　インターネット…２校　ウェブが混み合った…１校
メール送受信できない…１校　メール連絡網…４校　届くのが遅い…２校
混み合った……１校　届かない保護者が多い…３校

④一斉メール配信……10校

有効であったが、契約会社によっては届かない家庭があった……４校
機能しなかった…１校　着にタイムラグがあった（４時→８時）…２校
届かなかった……１校

⑤災害時緊急連絡放送（ラジオ）……１校

放送を聞いた保護者は若干名……１校

⑥その他

連絡できない…１校　情報が入らない、誤った連絡はできない…１校
通信関係が正常に機能しない…２校　代替手段執ってない……１校
連絡網が整備されていなかった（個人情報保護のため）…１校
メールアドレス登録していなかった…１校　特になし…２校　記述なし…７校

12. 学校のライフライン（水・電気・ガス）の被害についてお聞きします。

(1) 学校のライフラインは機能していましたか。

① 全て機能していた……420校

② 一部（水道・電気・ガス）が止まった……92校

無回答……13校

(2) (1)で②と答えた方、何がどのくらいの間止まり、それにどう対応しましたか。

電気が止まった……45校

１日以内……28校　　１日以上……17校（最長約１週間）

（対応）懐中電灯やろうそく、別校舎に移動、自家発電、石油ストーブ、待つしかない、登校出勤を取りやめる（学校閉鎖）

ガスが止まった……６校（一時的～翌日）

（対応）カセットコンロ　電気で代替（暖房・湯茶）

水道が止まった（濁り出す）（含む校内水道管破裂）……６校（最長５日間）

（対応）ポリバケツに貯める、ペットボトル、プールの水（トイレ）、生徒の登校を控える

水道と電気が止まった……９校（６時間～３日間）

電気が止まり、それに伴って水道も止まるケースが３校であった

水道とガスが止まった……１校

（対応）業者が対応した

電気とガスが止まった……２校

（対応）実習をとりやめた　発電機による一部照明

水道、電気、ガスが止まった　（一昼夜）

（対応）ペットボトル飲料や懐中電灯

その他、ボイラーが止まる……１校

（対応）独立空調のある部屋に移動

13. 学校には震災に対応するためにどのようなものが備蓄されていましたか。

(1) 回答欄にあげられている項目のうち、備蓄されていたものに、○をつけてください。とくに役に立ったものには◎をつけてください。（複数回答可）

(2) 無くて困ったものは何ですか。

	備蓄されていたもの	特に役立ったもの	無くて困ったもの
① 水	381校	48校	９校
② 食料	366校	54校	64校
a．カンパン	259校	19校	
b．アルファー米	62校	７校	
c．その他	126校	10校	
③ 寝具	321校	47校	32校

	備蓄されていたもの	特に役立ったもの	無くて困ったもの
a．毛布	211校	26校	47校
b．レスキューシート	100校	7校	2校
c．寝袋	35校	2校	6校
d．マット	36校	3校	19校
e．その他	14校	1校	1校
④ 防寒具	38校	3校	9校
⑤ 簡易トイレ	125校	2校	3校（屋外用含む）
⑥ 浄水器	21校	0校	1校
⑦ ハンドマイク	379校	9校	
⑧ ヘルメット	201校	2校	2校
⑨ 防災ずきん	109校	6校	
⑩ ジャッキ	48校	0校	1校
⑪ 担架	323校	2校	
⑫ カセットコンロ	64校	1校	2校
⑬ トランシーバ	257校	12校	8校
⑭ 懐中電灯	366校	15校	6校
⑮ 笛	208校	1校	1校
⑯ 非常用電源	104校	4校	26校（発電機）
⑰ その他	34校	1校	※1
無回答	40校	450校	405校（不足無しを含む）

総計……525校

※1　暖房機（停電時用）15校、コンタクト洗浄器13校、電源不要テレビ3校、ラジオ3校、電池6校、生理用品2校、投光機1校、タオル1校、洗面用具1校、通信手段1校、段ボール1校、携帯電話充電器、ローソク1校、ヘッドライト1校、歯磨き1校、ガソリン1校

(3) 備蓄品のうち、とくに水と食料と寝具の備蓄量は十分でしたか。

① 十分だった… 224校　② 十分でなかった… 164校　①と②……1校

無回答…… 136校

14. 震災時の教員の組織・協力体制について。

(1) 教員の組織・協力体制は，どうでしたか。

① 円滑にいった…… 415校

② 震災という非常時のため教員の組織・協力体制はうまく機能しなかった…12校

③ 円滑にいったところと、うまくいかなかったところがあった……75校

無回答……23校　総計…… 525校

(2) それはどうしてですか。 ※複数の指摘はそれぞれでカウントした

① 円滑にいった

教員の協力・連携……89校　多くの教員の在校、生徒は少ない…80校
日頃の訓練研修……65校　指揮・指示系統……59校
特に被害なかったから……32校　組織体制が確立・機能……22校
特に理由なし……１校　その他……９校　無記載……95校

② 震災という非常時のため教員の組織・協力体制はうまく機能しなかった

保護者との連絡が停電などのためつかなかった……３校
状況がつかめず、とっさの判断ができなかった、困難だった……２校
緊急の組織体制がつくれなかった、指示系統が複数あり混乱した……２校
在校している教員の不足……２校
教職員の自覚の欠如……２校
マニュアルに想定していない部分があった、役割分担が周知していなかった…２校
特に理由なし……２校

③ 円滑にいったところと、うまくいかなかったところがあった

想定していない事態で混乱した……14校
指揮命令系統がうまく機能しない、混乱した……11校
教員間の連携がうまくとれなかった……８校
在校教員の不足……８校
マニュアルに想定していないことがおこり臨機応変に対応した……７校
生徒把握に混乱がみられた……５校
連絡がとれず混乱した……５校
交通機関の途絶やライフラインの断絶などで混乱した……４校
管理職の不在……４校
生徒宿泊を想定していなかったので混乱した……４校

15. 震災後の心のケアについてお聞きします。

(1) 震災の影響を受けて、精神面で不安定になった生徒がいましたか。

① いた…… 106校　② いない…… 403校　無回答……16校
総計…… 525校

(2) ①と答えた方、具体的にどのような症状(様子)でしたか。

※複数の症状を挙げる学校もあり、それぞれをカウントした。

・不安や恐怖心、怯え……41校
　不安を訴える……25校　恐怖心……９校
　怯え(余震に対して) ……８校
・身体症状に出ているケース……19校
　不眠……９校　過呼吸……６校

・いつも体が揺れている気がする……４校
・その他（頭痛・吐き気・食欲不振・貧血）
被災地に家族や親戚・知人がおり、死亡や家屋流出などを経験し不安、安否を憂慮、虚脱感、不安感、無気力感など精神的に不安定になる……14校
通学が困難（外出・登下校に不安・電車恐怖など）……12校
精神的に不安定（落ち着かなくなったり、逆に落ち込んだりする）９校
・行動化……２校
攻撃的になる　チェーンメールを出すことで不安恐怖を紛らす
・泣き出す……８校
分離不安（母親など家族から離れられなくなる）……４校
・テレビの映像を見てショック・気分が悪くなる・息苦しくなる……４校
・緊急地震速報の警報音・避難訓練のベルに怯える……３校
・揺れに過敏反応する……３校

(3) ①と答えた方、それに対して、誰がどのような対応をしましたか。

対応の主体

担任……42校　カウンセラー……33校
養護教諭・保健室……24校　教員……20校
保護者・家庭……19校　教頭……４校
学年主任……２校
※単独でなく、連携協力して対応している事例も多数見受けられた

対応の内容

話を聞く　声かけする　アドバイスする　寄り添う　安心させる　落ち着かせる　慰める　保護者と連絡協力　入院させる　等々

(4) 生徒全体に対して、メンタル・ヘルスの分野で対応されたことはありましたか。

① ある……90校　② ない…… 330校　無回答…… 105校　総計…… 525

(5) ①と答えた方、どのような対応でしたか。

・スクールカウンセラーが中心になって対応……36校
生徒・保護者に対処法などメッセージを発信……17校
教員に災害時の心理や注意すべきことについて伝える……４校
カウンセラー利用の方法を案内……５校
通常カウンセリング……５校
全校生徒にアンケート(→教員にフィードバック)……２校
その他（カウンセラー出校日を増やす　担任や養護教諭と協力連携など）
学校長が全校集会・終業式・始業式・全校放送などで講話……20校
教職員一同で対応……13校
生徒の様子を観察・ケア　心に聞く予防授業実施　正確な情報提供と巡回　アンケートを実施、面接　など

・養護教諭・保健室が対応……4校

不安を取り除くメッセージを出す　悩みを聞く

症状が出やすい児童生徒を挙げ、注意深く見守るよう担任などに要請

・担任が対応……4校

生徒一人一人を観察　話を聞く　非常時の対応を話す　休校中電話で様子を聞く

※担任・養護教諭・カウンセラーの連携協力も多くみられた。

［3］その後の対応について、お聞きします。

16. 震災を承けて、学校行事予定の延期・中止・変更はありましたか。

(1) 学校行事予定の延期・中止・変更等はありましたか。

① あった…… 420校　② なかった…… 101校　無回答……4校

総計…… 525校

(2) (1)で「①（あった)」と答えた方にお聞きします。回答欄の該当する行事変更に○をつけてください。

① 平常授業を（a短縮・b延期・c中止）した…… 165校

a短縮……16校　b延期……6校　c中止…… 151校

② 学年末試験を延期した……15校

③ 入学者説明会を（a延期・b中止）した……92校

a延期……37校　b中止……54校

④ 卒業式を（a延期・b中止）した…… 147校

a延期……97校　b中止……49校　a延期とb中止…2校

⑤ 終業式を（a延期・b中止）した…… 225校

a延期……57校　b中止… 163校

⑥ 修学旅行等学校行事を（a延期・b中止）した……82校

a延期……22校　b中止……58校

⑦ 春休み中、学校を（a閉鎖・b登校禁止・c部活動中止）にした… 261校

a閉鎖……31校　b登校禁止… 165校　c部活動中止… 119校

⑧ 入学式を（a延期・b中止）した……24校

a延期……18校　b中止……5校

⑨ 始業式を（a延期・b中止）した……7校

a延期……4校　b中止……2校

⑩ 体育祭・学園祭等を（a延期・b中止）した……13校

a延期……6校　b中止……7校

⑪ その他…… 123校

(3) (1)で「①（あった)」と答えた方に、学校再開に向けた動きについて、お聞きします。

(3-1) 最初の登校日はいつでしたか。

2011（平成23）年

３月12日……５校	３月23日……19校	４月５日……27校
３月13日……２校	３月24日……23校	４月６日……32校
３月14日……28校	３月25日……10校	４月７日……40校
３月15日……12校	３月26日……６校	４月８日……38校
３月16日(高)、19日(中)１校	３月27日……１校	４月９日……２校
３月16日……８校	３月28日……２校	４月11日……５校
３月17日……８校	３月29日……３校	４月13日……１校
３月18日……22校	３月30日……１校	４月15日……１校
３月19日……38校	３月31日……３校	安全確保……１校
３月20日……４校	４月１日……９校	
３月21日……４校	４月２日……２校	無回答…… 121校
３月22日……33校	４月４日……13校	総計…… 525校

(3-2) それはどのような判断から決めましたか。

「通学安全の確保　交通機関の復旧」を圧倒的多数の学校が挙げている。付随的に以下の点を挙げている学校もある。

・学校行事運営（終業式・卒業式・答案返却・学年末片付けなど）の都合
・校舎の安全が確保された
・保護者の要望を配慮　保護者の送迎が期待できる
・電力供給などライフラインが安定した
・余震が収まってきた

あまり被害のなかった地域や学校では、通常通りという答えもあった。

(3-3) 平常日程への復帰はいつでしたか。

2011（平成23）年

３月９日……１校	３月26日……３校	４月14日……１校
３月12日……１校	４月１日……26校	４月18日……３校
３月13日……１校	４月２日……３校	４月20日……１校
３月14日……12校	４月４日……13校	４月21日……１校
３月15日……６校	４月５日……44校	４月25日……１校
３月16日……５校	４月６日……60校	５月１日……３校
３月17日……２校	４月７日……60校	５月６日……１校
３月18日……７校	４月８日……56校	５月９日……３校
３月19日……２校	４月９日……11校	５月16日……１校
３月22日……18校	４月10日……２校	５月23日……１校
３月23日……８校	４月11日……23校	９月１日……１校
３月24日……９校	４月12日……４校	無回答…… 125校
３月25日……４校	４月13日……２校	総計…… 525校

(3-4) それ(平常日程への復帰日)はどのような判断から決めましたか。

これも「通学安全の確保　交通機関の復旧」を圧倒的多数の学校が挙げている。付随的に以下の点を挙げている学校もある。

・余震の減少　電力供給などライフラインの安定　社会的状況も安定した
・校舎補修工事のめどが立った
・保護者の反応
・他校の動向
・学校行事（卒業式、入学式など）予定のため
・外国人教師が戻る　あるいは充足可能

あまり被害のなかった地域や学校では、通常通りという答えもあった。

(3-5) 授業日数の確保のために、どのような対応をしましたか。

・春休み・夏休み・冬休みの活用、短縮
・４月以降の放課後　通常時間外に延長
・土曜授業を実施　　・代休、中間テストの中止
・学校行事（遠足など）の一部縮小　　・短縮授業　　・補習と課題

しかし、特に授業を中止することはなかった、授業は終了していたという学校が多かった。

17. 原発事故の影響についてお聞きします。

(1) 原発事故の影響はありましたか。

① あった… 163校　② なかった… 352校　無回答…10校　総計… 525校

(2) (1)で「①あった」と答えた方にお聞きします。どのような影響がありましたか。具体的にお書きください。

・学校行事・校外学習の行く先の変更・中止
（研修旅行・林間学校・校外学習・クラブ合宿など）……40校
・放射線に対する保護者の不安、問い合わせ、要望があった
（ホットスポットではないか　プール・水道水・給食の食材など）……32校
・放射能汚染（またはその心配）、測定などの負担、除染の必要
（ホットスポットの指摘　測定機器の購入・測定）……23校
・生徒・留学生の転校・帰国・入学辞退……17校
・計画停電などによる登校困難・部活動中止・ネット利用できず……16校
・屋外活動を抑える（屋外でのクラブ活動、プール）……12校
・節電（文化祭規模縮小・夏休みの延長）……11校
・生徒の行事欠席・西日本への避難……９校
・給食食材の見直し・点検……８校
・外国人講師の帰国……５校
・帰省(福島に)できない生徒がいて寮にとどめた……２校

・福島からの転入生受け入れ……2校
・生徒の不登校（不安による）……1校
・国際交流の中止……1校
・保護者の就業困難……1校

(3) (1)で「①あった」と答えた方にお聞きします。それに対して、どのような対応をしましたか。

・保健所など関係諸機関からの情報収集に努める。
・校内放射線量を、測定器を購入したり、業者に依頼して、測定する
・食材のチェックをする
・測定結果の高い学校では除染に努める
・上記のことなどを保護者に説明し、広報に努める
・屋外での活動を控えさせたり、マスク着用を奨励するなどの措置をとった　授業の場合は代替・措置を執った
・自主避難で西日本へ避難したりした生徒の申し出をやむを得ないとしたり、出席扱いとした

などの対応が挙げられていた。

［4］今後の対応について

18. 震災の影響や今後起こりうる災害について、学校として考えている対応について

(1) 以下の中から該当するものをお選びください。（複数回答可）

① 生徒の安否確認の方法の改善 …… 364校
② 連絡通信手段の改善（情報収集・発信） …… 381校
③ 保護者への連絡・引き渡し手順の改善 …… 284校
④ 防災マニュアルの見直し …… 379校
⑤ 防災委員会などの設置 ……83校
⑥ 教職員の連絡・招集体制の見直し …… 183校
⑦ 防災対応等の教員の研修 …… 192校
⑧ 備蓄品（水・食糧・寝具等）の種類・量の見直し …… 407校
⑨ 救急体制の拡充（保健室ベット数など施設整備、救急薬品・備品の充実等）121校
⑩ 災害についての安全教育の徹底 …… 237校
⑪ 生徒・教職員の心のケア ……59校
⑫ 外部機関（自治体・医療機関など）との連携 …… 113校
⑬ 被災建物施設の再建・補修とその資金的見通し ……50校
⑭ 生徒募集への影響の評価とその対策 ……61校
⑮ その他 ……15校
　　その他の内（全てマニュアル化した） ……1校
無回答……7校

(2) (1)で回答した項目のうち、とくに重要と思われるものについて、詳しくお書きください。

＜安否確認の方法 ①＞

・特に、下校途中の連絡方法を徹底する必要性あり
　ルートの決定（下校中の生徒→保護者→学校） …… 3校
・方法は携帯電話によるだけとなる　果たして連絡が取れるかが課題 …… 2校
・登下校時の児童の把握と親への連絡 …… 3校
・登下校時の安否確認方法が確立していない（確立したい） ……14校
・生徒の集団下校体制は妥当か
・保護者との生徒安否情報の共有手段 …… 2校
・生徒の安否（安全）確認が第一 ……11校
・帰宅途中、校外活動中生徒の安否確認方法の確立 ……15校
・連絡の取れない生徒宅への家庭訪問が困難
・登下校メール確認システムの導入 …… 2校
・保護者と協力し通学経路の確認など、防災マップの配布
・下校中の場合、学校に近い者は学校に戻ることを基本とする
・児童が（一人で）在宅中の安否確認 …… 3校

＜通信手段 ②＞

・衛星携帯電話の設置（一斉メール配信にプラスする通信手段として） …… 2校
・ホームページによる保護者への連絡 ……12校
・一斉メール配信の導入・活用 ……50校
・メールとネットの共用
・メールアドレスの登録を推奨
・「ニッポン放送」を通しての伝達が可能なのか不安
・通信手段が単独でしかも不確実だったことからの改善 …… 6校
・生徒の安否確認を保護者へ確実に伝える方法を見直し、検討中 ……34校
・保護者、法人との連絡体制の見直し …… 7校
・連絡、通信手段の脆弱さを痛感、その強化に努めた
・情報収集手段と情報提供手段の見直し …… 9校
・生徒への連絡網を整備 …… 2校
・緊急災害時の連絡通信手段のマニュアル作成 …… 6校
・通信インフラがダウンしたときの対応 ……11校
・行政による連絡通信手段の改善も必要 …… 2校
・伝言ダイアルの使用
・登下校中、放課後の活動中、在宅中等を考えると現在の通信機能では限界
・教職員の携帯のメールアドレスを掌握
・どの通信手段にも限界がある　日常の信頼関係の構築を
・素早く震災による被害の状況を知る手段、方法の確立
・フェイスブックに団体アカウントを登録

＜保護者への連絡・引き渡し手順の見直し③＞

・帰宅困難な生徒は学園の学寮に宿泊させることを，保護者に周知する
・ 保護者への連絡・引き渡し手順の改善 ……20校
・生徒の安全確認を最優先とし、早く安心されるよう情報を発信する ……３校
・保護者へ引き渡すだけでよいのか
・家庭との連携
・共働き家庭との連絡方法

＜防災マニュアルの見直し④＞

・生徒のア在校中　イ登下校中　ウ校外活動中の３パターンで、対応マニュアル
　を作成し教員・生徒・保護者に周知・連携強化 ……５校
・近隣生徒の徒歩帰宅を学校待機に ……２校
・徒歩、自転車での帰宅可能圏の生徒を家庭への連絡なしで帰したことを反省
　今後、帰宅させる条件を検討中 ……２校
・下校途中生徒の把握（安全確保） ……３校
・あらゆる災害に対する対処法を検討、再確認 ……２校
・無理な下校はさせない
・役割分担の見直し　全員がその場にいるとは限らない
・現場にいる者の対応の工夫
・指示体制の具体化 ……２校
・指示される側と指示する側の基本知識の重要性
・放送設備の改善
・防災マニュアルの作成 ……10校
・「判定会招集」を中心としたものから、緊急体制に入り保護者の引き取りを待つ
　スタイルに変更
・防災マニュアルの徹底・見直し ……48校
・見直しの過程で教員の合意形成が大事
・いくつかの場合ごとに細かく対応を分けていたが、できるだけ
　単純で分かりやすいものに変える必要あり ……２校
・帰宅マップの作成　帰宅路線の作成 ……３校
・帰宅困難者への対応 ……11校
・登下校時の災害の場合、どこで　学校へ向かうか家庭に戻るか親子の取り決め
・登下校時、どこで被災したらどう行動するか、親子での話し合いを提言
・幼から高まで同じ敷地内にあるので、学園としての組織をきちんとするよう改善
・スクーリング時（通信制高校）の対応
　登校していない生徒の安否確認法の作成 ……２校
・津波対応のマニュアルの見直し ……７校
・津波時の避難訓練を実施　その反省から見直しをし更に訓練を実施 ……２校
・事前、発生時、事後の対応マニュアルの見直しと訓練の実施
・防災マニュアルを生徒、保護者にも周知する ……２校

・災害対策カードをより実質的なものへと検討し改善した
・帰宅可能か否かの判断が重要になる ……3校
・寮、食堂を活用し、安全回復まで帰宅させない
・有効なマニュアルとするため専門家のアドバイスが不可欠
・登下校時に被災した場合の対応は、マニュアル通りが通用するか

＜防災委員会の設置 ⑤＞
・防災委員会の設置（発足） ……3校
・各学校（大学・短大・高校・幼稚園）の代表者による危機管理防災対策会議を開催

＜教職員の連絡・招集体制の見直し ⑥＞
・連絡方法と招集体制の見直し
・教職員が安心して職務に望めるよう家庭との双方向安否確認システムを作る
・長期休暇、休日、深夜などの勤務規定がない

＜防災対応等の教員研修 ⑦＞
・教員一人ひとりの意識向上を図りたい ……2校
・教員の研修、訓練を実施　意識と行動能力を高める ……7校
・救急救命講習、防災館の体験
・防災対策の教員研修：マニュアルの啓蒙　災害時業務の理解
　防災器具避難具の使用訓練　避難誘導訓練等の実施　→災害時対応能力の強化　4校
・講師による講話：教員意識の向上を図る
・被災地の視察

＜備蓄 ⑧＞
・帰宅困難者への対応としての備蓄 ……2校
・本校の備蓄は地域住民との共有なので、学校分を別に確保し管理すべき
・停電時への対応（発電機）等 ……9校
・備蓄品の種類と量の見直し（トイレを含む） ……125校
・移動教室の際の防災頭巾を用意した
・万一の場合も近くのコンビニ等で購入すればよいと考えていたが、あっという間に品切れとなり満足に購入できなかった
・カンパンの見直し
・道路封鎖による食料入手困難も予想される
・備蓄品用倉庫の増設
・備蓄を増やしたいが、倉庫の設置場所がない ……2校

＜救急体制の拡充 ⑨＞
・地域からの孤立を考えると救急体制の確立が重要
・救急処置対策 ……5校
・災害に巻き込まれた生徒の確認、救出が課題
・震災によってなくなられる方が出た場合の対応

・薬品の充実 …… 2校
・陸の孤島（箱根）となった場合医療機関との連携が課題

＜災害安全教育 ⑩＞
・安全に避難する経路の指導 …… 2校
・防災訓練の充実 …… 9校
・放水、搬出、救出等を教師と生徒の自助訓練として実施（総合訓練）
・災害についての安全教育の徹底 …… 7校
・生徒に学校周辺マップを持たせ、実際に歩いてランドマークを確認させた
・様々な場面に応じた対処法を日頃から指導し、自分の命は自分で守る意識を持たせる …… 4校
・外出中に震災に遭った時の対応の指導 …… 3校
・児童が一人でいるときに、自分の判断と力で自らの安全を守る「てんでんこ」の育成
・大津波を想定した全校一斉避難の訓練を実施
・下校班を作り引き取り訓練を実施
・大地震対応マニュアルを作成し、裏面に学校を中心に８㎞程度の地図を載せ常に携帯させる

＜生徒･教職員の心のケア ⑪＞

＜外部機関との連携 ⑫＞
・今回の震災によって、より現実的に関係機関と非常時の対応について確認できた
・学校周辺の状況を知る方法が目視以外になかった　自治体からの情報提供が必要
・公の情報が入りにくい　密な連絡が必要
・避難所の運営について市と調整 …… 2校
・校庭が医療ヘリポートに指定されているので市等との打ち合わせが必要
・大規模災害の場合には1校だけでは対応できない
今後被災者受け入れも含め自治体、町内会等との連携を強めたい …… 2校
・地域の避難場所に指定されているので、行政にもお願いしながら備品を確保したい …… 2校
・駅等に緊急時児童の保護を要請

＜被災建物施設の再建補修と資金的見通し ⑬＞
・被災建物施設の再建と補修　耐震検査　耐震補強 …… 3校
・同上およびその資金的見通し …… 2校
・校舎の老朽化と相俟って、表面的な復旧、修繕では間に合わない（少子化が経営の財政面を圧迫しており、予算的に非常に苦しい） …… 3校
・体育館や実習室が使用不可　どう手当てするか見通しが立っていない
・建物・施設の耐震強化 …… 4校
・窓ガラスにフィルムを貼った
・敷地内の除染対策と資金の見通し

＜生徒募集への影響 ⑭＞

・児童・生徒募集に影響大 …… 2校

・放射線量が高いという風評で募集に響く

＜その他 ⑮＞

・周辺住民の流入を予測しておく必要あり …… 4校

・教職員の適切な指示と落ちついた対応が非常に大切であることを知った

・安否確認、連絡通信手段、保護者への連絡･引き渡しの見直しと徹底は、人命に関わることなので重要 …… 2校

・電源やガソリンの確保に問題

・居住地域ごとの保護者組織を立ち上げ、より有効な協力体制を構築

・地震対応に対する保護者との認識を一致させる

・電車が止まり、子供たちが知らない駅で降ろされた。会社の対応を考えてほしい

・緊急時避難所、安全確保員、情報連絡員の協力を要請し、保護者の協力を得る方向で検討

・ＯＢや家族、地域の力を借り、マンパワーのアナログで児童の安全を守る方法の研究

・防災委員会と緊急対策本部の役割分担を明確に

・安心安全のために携帯電話の持ち込みを認めた

・親の承諾の元、携帯電話の使用を認めた

・保護者が生徒の安否を確認できないと、不要な移動をしたり、連絡手段のさらなる混乱を惹起し、地域社会の大きなトラブルの原因となる

・防災に対する指導指針を明確にすることを望む

＜分析および考察＞

1．重要事項として多くの学校が挙げた項目を拾ってみよう。

① 登下校中および校外活動中の災害時に児童・生徒の安否確認が困難

② 一斉メール配信の導入

③ 生徒の安否確認を保護者に伝える方法の見直し、検討中

④ 保護者への連絡・引き渡し手順の改善

⑤ 防災マニュアルの作成、徹底・見直し

⑥ 備蓄品の種類と量の見直し

以上、６項目が数的に目立っている。

＜考察＞

今回の震災は多くの学校で授業が行われている時間帯であったが、中には、３年生が既に卒業していたり、定期試験後の休みだったりして、全校生が在学していたわけではない。また、定期試験のため午前中だけの授業で、既に殆どの生徒が下校しており、一部の生徒だけがクラブ活動で残っていた学校もある。勿論、全校生徒が在校していた学校もある。在校していた生徒の安否の確認は、避難のあと教員の点呼ですんでいるが、問題は下校途中や校外活動中の ①生徒の安否は、確認の方法がなかったかあっても相当時間がかかっていたといえる。

この困難に追い打ちをかけたのが、固定電話を始め、携帯やパソコンが通じなくなった

ことにある。震災から数時間は家庭への連絡方法が全くなかった学校も多く、あっても校内に１台ある公衆電話だけという学校が大部分だったようだ。また、ニッポン放送の緊急時連絡システムや従来の学校電話連絡網が全くといっていいほど機能しなかった。

このことから、多くの学校が連絡通信手段の見直しを行っている。電話連絡網や固定電話が使用不能になったことから、新しい連絡通信手段として ②一斉メール配信機能を導入した学校が多かったといえる。また、連絡通信手段を単一の手段だけに頼るのではなく、衛星携帯機能やホームページの機能等を導入し保護者との連絡をより早くより確実にするなどの工夫で、③生徒の安否確認を保護者へ確実に伝える方法を見直したり、検討の結果上記の手段を導入している学校が多い。

この連絡通信手段の困難さは、学校と生徒、家庭との間に混乱を招いている。すなわち、連絡の取れないまま生徒を下校させてしまった学校と、子供が心配なあまりとにかく学校へと車を走らせ、子供とは行き違いになってしまった保護者、帰宅途中の電車内で電車が止まり町に放り出されてしまった生徒などなど。

この混乱は、災害時に児童生徒を下校させるか学校に止め置くかの決めごとが学校になかったこと、取り決めがなければ当然保護者もどうしていいか判断できなかったことに起因している。そこで、多くの学校が、生徒の在校中に災害が起きたときの在校生の扱いについて検討し、それをあらかじめ文書で家庭に連絡しておくという、③と合わせて、④保護者への連絡･引き渡し手順の改善につながっていった。

次に大きな問題が、今回の未曾有の大災害に対応できうる防災マニュアルを持っていた学校が皆無に近かったことである。被害甚大地域でのこの問題は大きな災害を生んでいる。そして、被害を見聞した被害の比較的小さかった地域の学校でも ⑤防災マニュアルの作成、および徹底・見直しの必要に迫られたのである。今回は、小さな被害ですんだが、もし同規模の大地震が学校のある地域をおそった場合の事態を想定すればこれも当然であろう。火災を想定した避難訓練や地震を想定した避難訓練は多くの学校で実施されてきたであろう。しかし、これほどの大地震や大津波は避難訓練の想定内になかったのが事実であろう。

多くの帰宅困難な生徒が出た結果、起こってきた問題が食事と寝泊まりへの対応であった。災害を想定し食料や水の備蓄をしていた学校は多い。しかし、その備蓄の内容は今回の災害へ十分に対応できるだけのものではなかったといえよう。全校生徒が学校に一泊以上することを想定して食料と水の備蓄はしていても、冷たいものしか与えられなかったのが事実であり、寝具に至っては、３月の寒さを考えた対応にはほど遠いものであったといえよう。

また、ライフラインの停止の有無によっても学校の状況は大きな差があった。水道が止まった学校ではトイレの問題が発生しており、電気が止まった学校では、暖房施設が機能せず暖をとることに苦労したり明かりの確保が困難になったりしている。

こうした状況を経験した多くの学校では、⑥備蓄品の種類と量の見直しを最重要項目に挙げている。全校生徒が一泊だけでなく二泊、三泊することも想定した水や食料の備蓄量が必要だとした学校や、毛布、マット、寝袋等の寝具の備蓄が必要とした学校が多い。毛布やマットは、学校持ちで購入し保管すると汚れやカビの問題が起ったり、いざというとき使用不可能なことも起こりうる。そこで、寝具に関しては、寝袋（シュラフ）を個人持

ちで購入し、学校保管とする方法がよいのではないか。卒業とともに個人に返し、手入れをした上で上級学校へ持って行けるという利点がある。

更に、電源確保のための発電機や停電時の暖房器具として灯油用のストーブに備蓄が必要とした学校が多いいが、購入費用がかさむことや食料・水の備蓄量が増加することと相俟って、各学校ともその保管場所の確保に苦慮している現実があるようだ。石油ストーブも相当な個数を必要とするであろうし、今回の激震地区の灯油とガソリンの入手困難を考えると万全ではないといえる。簡易トイレの購入を考えた学校もあったようだが、それこそ保管場所の問題が起きてしまうであろう。

以上、多くの学校が重要な課題として挙げた６項目について考察してきたが、これら以外にも数は少ないが重要と思われる事柄数項目について考察してみた。

その他１

今回の大震災で津波の被害が出たのは、岩手、宮城、福島、茨城の沿岸部であった。その他の地区では津波の被害は、ゼロか僅少だったが地震の発生場所によっては津波に襲われる危険性を十分に想定しておかなければならないと考えられる。すなわち、海岸に近いところにある学校には、津波に対する避難のマニュアル作りが急がれる。

その他２

地震発生時における避難や生徒の安否確認、帰宅困難生徒への対応などに関する教員間の指示･命令系統、防災管理の体制等、学校としてのまた教員の災害への対応能力の問題がある。学校としては、防災委員会や危機管理に関する体制を明確にする必要があるし、教員としては、何時どこで災害に遭遇しても冷静かつ的確に対応できる力量をつけておかなければならない。管理職や危機管理担当者だけが対応できればいいのではない。校長や教頭などの管理職がいないときに災害が起きることもあろうし、生徒を引率して校外活動に出ている場合もある。

学校は、災害に対応する組織、体制をきちんと作成しておく責任があるし、教員は、災害に対する研修と訓練を実施し、意識と行動能力を高めておくことが大切だと考える。そして、最も肝心なことは、既存のマニュアルにこだわらず状況に応じた対応ができることである。

その他３

児童生徒の避難訓練等の安全教育に関する記述の中に、防災訓練･避難訓練の充実を挙げている学校も多いが、学校以外の場所で災害に遭遇することがあり、どこででも対応できる能力を、児童・生徒の一人ひとりが身につけておくことの大切さに言及している学校があったことだ。自分の命は自分で守る、自分の安全は自分で守る「てんでんこ」の意識を育む安全教育の必要を訴えていたことである。

その他４

災害への対応に当たり疎かにしてはならないことの一つに、学校と保護者との信頼関係が挙げられる。災害に対する保護者との認識の一致と連携を保ち、信頼関係を築き上げておくことも大切だと考える。

その他５

この調査項目を集計していて驚いたのは、⑪の生徒・教職員の心のケアを重要事項に挙

げた学校が皆無だったことである。震災の被害甚大地域のアンケートを集計した者にとっては以外であると同時に、ある面で納得もできることであった。

心のケアが必要ないということではなく、人的な被害、身近な人の死亡や家屋の流失といった被害のなかった児童・生徒や教職員にとっては心のケアを必要とする傷を負っていないということであろう。しかし、過去の震災（例えば阪神淡路大震災）においては、あの災害の発生直後よりも、５年、10年経過した時点で心のケアを必要とする事態が起きているのである。たとえ、身近に死亡や家屋の流失といったことはなくとも、激しい揺れで感じた恐怖は、時間を経てからトラウマとなって現れることもあろう。今後、心のケアを必要とする事態がおこることも想定し、児童生徒の観察と言葉がけを続けていく必要があろうと考える。

19. 震災発生時およびその後の学校としての組織的対応、指揮系統などについてお聞きします。

学校によっては、校長不在などで指揮系統などに混乱が生じたところもあった、あるいは防災担当など校務分掌があらかじめ決められていたが、地震発生時、他の用事で当該教員がおらず、機能しなかったなどの事例を聞き及んでいます。震災発生当日およびその後の、学校としての組織的対応、指揮系統などはいかがでしたか。どなたが震災対応の実質的リーダーシップを取りましたか。改善策はありますか。

＜集計と考察＞

（１）校長不在の学校は76校（525校中）　約14%であった。

しかし、概ね混乱なく事態収拾に当たったようである

① 不在の理由：会議や行事などでの出張や修学旅行引率、中には傘下数校の校長兼任で常駐していない場合などもあった。

② さらに、副校長や教頭など他の管理職も同時に不在の場合もあった。

③ 不在の期間

数時間で帰校でき、指揮を執ることができたケース

渋滞などに巻き込まれ、長時間帰校できなかったケース

修学旅行など遠隔地で、全く帰校できなかったケース

④ 連絡

さらにその間電話等で連絡がつき、指示を出せた場合と携帯がつながらず、指示も出せなかった場合がある。

⑤ その間のリーダーシップ

副校長・教頭など管理職クラスが替わって指揮を執ったケースが最も多い。

ただ中には、副校長・教頭クラスなども不在のケースがあり、その場合は、事務長・教務主任・生徒指導主任などが指揮に当たった。

これらの場合も、校長不在の場合のマニュアルが整備されていて指揮に当たる順位が明瞭な場合とそうした取り決めがなく、その場で咄嗟に対応したケースがある。

＜考察＞

校長は対外的に学校を代表する者として、どうしても会議や諸団体との交際など出張が多い。実際、校長不在の学校は76校（525校中）約14％であった。

校長不在で困った経験をした学校では、この経験を機に、

・指揮系統に当たる人の順位を確認した

・指揮系統に当たる人の順位を明示したマニュアルをあらためてつくることにした

・管理職クラスが一人もいない事態を避ける為に必ず誰か一人は残ることにした

などの改善策を講じている。

（２）震災に対応する担当が不在のケース

１校のみだったが、その場合も前任者がおり、校長教頭など管理職と協議して混乱はなかったとのことだった。

（３）実質的リーダー

＜集計＞

校長（単記）…… 110校

副校長・教頭……54校

校長－副校長・教頭・事務長－教務部長（主任）生徒指導部長（主任）・学年主任等のラインがあって対応…… 127校

防災委員会・災害対策本部などの組織だった対応……25校

全教職員であたった……５校

その他、一般教員が防災士などの有資格者や防災担当などであることから指揮を執った場合もある……１校

＜考察＞

校長が率先して陣頭指揮を執ったというケースが、さすがに一番多かった。実質的リーダーは校長とされるが、実務的には副校長・教頭などが指揮を執り、校長は背後に控えて最終的判断や裁可をするという場合も多く見られた。また指揮命令系統のラインが確立していて、整然と対応した場合も多い。またあらかじめこうした事態を想定していて、すぐに対策本部が立ち上がり、組織だった対応がなされた学校もある。

一方、「実際に遭遇したら防災組織もすぐには思いつかなかった」とか、「防災担当などの校務分掌が決められていたが機能せず、その場にいた教員がそれぞれ指導指示を出し、リーダーは不在」とか、「想定外のことが多く、少なからず混乱もあった」などの学校もあったようである。

（４）課題と改善策

＜集計と考察＞

基本的にマニュアル通りに組織だった対応ができたので、改善の余地はないという学校も多くあったが、今回の大震災対応で課題や改善策を模索する学校も少なからず見られた。それらの学校の取り組みは、他の震災対応を考える学校にとっても参考になると思われるので、以下に紹介したい。

① まず、マニュアル等がなかった、あるいはあっても火災や不審者対応中心で、今回の大震災のような事態に対応できなかったので、マニュアルを作成または見直して指揮系統を確認する学校がある。

例）・細かいマニュアルの作成

・マニュアル作成途中での被災で、再考することになった

② マニュアルはあったが、校長不在、あるいはマニュアルで決められた役割担当が不在で、実質的に機能しなかった場合があり、あらためて指揮系統の順位を確認したりするなどマニュアルを手直しするとした学校のケース。

例）・校長不在時の代理の指揮者を予め決めておく

・管理職４名のいずれかが在校するようにする

・実務に即した防災組織の見直し

・予想されるでき事をチャートとしておく等、応用力が必要

③ 必ずしもマニュアルが機能しなかった経験（「あらかじめ定めてあったマニュアルの役割分担は不要のもの、不足しているものがあった」「防災の組織図はあったが、その通りには役割を分担できなかった」）に鑑み、課題や改善策を挙げている学校があった。

・マニュアルをつくれば、その中の誰かが欠けた時には動かなくなる可能性がある

・誰もがリーダーとして対応できるよう防災について意識を持つ

・どんなマニュアル、訓練があっても混乱することを前提にものごとを考える。完璧なことはありえない。必要なことは、組織化された自分の仕事のことだけでなく、臨機応変に動けること、危機感を持って「私が何とかしないと」という気持ちが何よりも大切である。

・全教職員の自立的判断が必要で、教員の訓練や意識向上が必要

・防災訓練では教員の配置を頻繁に換え、各教員が様々な役割を理解するように努める

・在校職員が規定の役割にかかわらず、必要に応じて臨機応変の行動をとることが肝要だと考えている

・不在・負傷などで指揮を執れない場合があるので、発災後、防災対策本部を設置し、生存者の中から本部長を選ぶ方針です（基本的には校長・教頭）

・防災マニュアルの基本思想として、「誰が」は書かず、「何を」を重視して、to do list 化した。したがって、「もしも」の時にはその場にいた者がリーダーとなる

これらの、指摘は、（茂木寿氏の説く）危機管理の知見「分厚いマニュアルではなく、必要事項だけのチェックリストがあればよい」や「誰もが同じ役割をとれるよう周知徹底する」とも合致するといえよう。

20. 学校としての被災地への支援活動などについてお聞きします。

姉妹校・提携校に支援物資や生徒のメッセージを送った、あるいは生徒が自発的にボランティア活動などをしたなど、支援の取り組みの事例がありましたら、お書きください。また学校として支援についての指導方針などありましたら、それもお書きください。

＜義援金（義捐金）・支援金の募金活動への参加＞

なんらかの形で募金活動を実施した学校数 …… 343校

参加形態　生徒会・委員会・教員会・卒業生・保護者会等様々

上記形態の複合型も多い

具体例

・22年度卒業生が学校への記念品の費用を全額寄付
・遅れて行われた卒業式当日、卒業生の呼びかけで募金活動
・節約ランチデー（おにぎりの日）をもうけて活動
・中止した謝恩会の費用を全額寄付
・生徒会有志が他校生とともに「宮城県アンテナショップ」前で募金活動

＜ボランティア活動＞

なんらかの形で活動した学校数 ……71校

活動形態　生徒会・クラブ活動・教員・卒業生・保護者等

募金活動と同様に、複合型も多い

具体例

・学校全体でボランティア活動に取り組んだ
　延べ400名の生徒と20名の教員　計10回　宮城県岩沼市で
・生徒、保護者、教員が参加し、被災地での写真洗いや泥のかき出しを行う。
　４回実施し延べ200人が参加
・高１・２年の生徒120名を岩手県にボランティアとして派遣
・教員のボランティア活動（休暇中）
・生徒中心の有志の復興ボランティア（瓦礫の撤去　泥かき　避難所の世話等）
・（母国へ逃げ帰る外国人が多い中で）外国人教師の積極的なボランティア参加
・生徒の有志と教員がボランティア活動に参加
・生徒会、部活動単位でボランティア活動
・ＰＴＡ主催のボランティア活動
・同窓会ＯＢとの合同ボランティア
・ＯＢのボランティア
・児童会と教職員の研究部が中心となってボランティア活動
・近所の体育館で福島県からの避難民へのボランティア活動 地元新聞報道
・川崎市に避難してきた子供たちへのボランティアに参加

＜文化祭・学園祭等での支援・募金活動＞

具体例

・被災地の学校とともに物産展を開く

・文化祭のテーマを「東北へ元気を送ろう」とし、模擬店の収益を日赤に
・文化祭を「東北復興へエール」の内容に変更
・文化祭のテーマをRevive……復興……とし，種々の活動を実施
・学校からの募金が縁で、文化祭に気仙沼女子校生徒会が来校　パネルを展示　毎日新聞報道
・文化祭に被災地の方を招き、ボランティアの大切さ、 原発事故の風評被害などについての講演会を開催
・文化祭のバザーで、石巻から仕入れた原料を使用　売り上げを寄付
・文化祭で、修学旅行でお世話になっている岩手ＪＡの野菜を販売
・学園祭の収益金を深谷市の姉妹都市、岩手県田野畑村の学校に寄付
・文化祭で、復興支援活動として石巻の「希望の缶詰（きんかさば)」等を販売
・学園祭（文化祭）の収益金を寄付
・学園祭で東北（岩手等）物産展を開き売上金を寄付
・文化祭で被災地産の商品を販売
・(学園祭で）バザーを実施　売上金を送る
・文化祭で東日本応援企画
・食物調理科の生徒がカップケーキを作り、避難所に持参
・部活動の記録ＤＶＤを送った

＜支援（救援）物資を送る＞
・文房具 図書 衣類 マスク うちわ スポーツ用品等を被災地に送った学校数…120校以上
・中古の車いすをメンテナンスし計50台送る
・発電機能付きＡＭラジオを70台送る
・集めたお金でコンテナハウスをプレゼント（図書館として使用）
・東電の作業員宛にメッセージ入りのタオルを送る
・海外姉妹校からの救援物資や義援金を被災地に
・科学部が，ソーラーを送る
・支援物資を被災地に送るＮＰＯに車両を提供

＜コンサート等での支援・募金活動＞……30数校
・チャリティーコンサートを開催　義援金を日赤等に
・被災地の仮設住宅で弦楽合奏
・吹奏楽部が夏休みに東北へ慰問演奏を
・卒業生のチャリティーコンサート
・南三陸町の中学校の依頼で、吹奏楽部の演奏、体操部の演技を披露

＜その他の支援・交流等＞
・学園全体（幼～高）で「追悼バルーンリリース」を全国数カ所と連携して同時刻に実施した
・タオルを売って寄付するアイデア（生徒会）を実行
・メッセージ（手紙）を送る……約30校

・メッセージソングを送る
・被災地からの生徒の受け入れを積極的に（授業料の免減など・表明）……約30校
・被災地の子供が安心して勉強できる「ホームステイプログラム」を用意した
・全教員で南三陸町を視察　被災者の話を聞く
・被災し親を失った生徒の卒業までの学資の支援
・特別支援学校と生徒交流
・避難所でアニメ映画の上映（教員４名で）
・ラグビー部が釜石市の選抜チームと親善試合
・サッカー部、野球部による被災地を訪問しての親善試合は数例
・クラブ活動でローソンとともに開発したパンを被災地に届けた
・福島県の学校関係者に講演をしてもらう
・「自分たちに何ができるか考え、行動しよう」と呼びかけ、児童たちが靴みがきや肩たたきをし、義援金を送る
・ソーシアルアントレプナーシップセミナーに教員１名、生徒３名が参加　被災地への研修結果を文化祭で発表

＜学校の方針等＞
・学校としての支援は適宜判断
・学校としては特に指示していない……数校
・「復興支援室」を設置し、被災地へのボランティア派遣等、可能な限りの支援を企画、実施
・学校としての支援はなし　部活、委員会単位で支援の申し出があれば積極的に後押し
・被災者の立場に立って援助できることに対して率先して取り組むことを考えさせた
・募金活動は今後も長期間実施していく方針
・大震災が未曾有のでき事であるが、日常の日々を生きることの大切さを教えていきたい
・被災地のためにできることを考えさせる
・今後も息の長い支援を続けるために、震災のことを記憶し続けることが大切だと思う
・折に触れて支援活動を展開する中で、命の尊さ、人との絆の大切さや防災意識を高めたいと考えている
・本校生徒自身の生活規律をきちんと保つことができる方向を追求するように指導した
・学校で組織的に取り組むゆとりはなかった
・長く支援して行く方針　具体的な支援内容はその都度求められていく中で決定
・学院全体で支援プロジェクトを組み、募金活動を継続的に実施していく予定
・学校としての支援はこれからも続くものと考えており、時に応じて対応していく
・学校としてできることであれば協力していく
・特に必要な場合には別枠での活動も可能である
・長期間にわたり継続する方針
・今後も生徒会による募金は定期的に行う
・生徒会の自発的な活動を積極的に支援する
・非常時に支援ができる人材、復興に尽力できる人材、防災をシステムとして考えられ

る人材になるために、今はしっかり勉強しなさい
・私たち自身も被災しているが，自分たちよりも大きな災害を被った人々が大勢いることを認識し、その人たちへの支援を怠らないこと
・被災地の人々の状況や，日本を始め世界中からの支援の様子を認識し、国や文化を越えて助け合うことの意義を学ぶよう指導している　また、日本に支援が寄せられる理由や自分が日本全体の復興にどう対応したらよいかを考えさせていきたい
・息の長い支援活動を心がけている
・本校生の心身のケアに配慮
・保護者の多様な考え方から，学校をあげてのボランティア活動には限界があると思う
・ただお金を出すというのではなく，痛みを分かち合うために自分も犠牲を払うことを指導方針としている
・建学の方針として社会貢献がうたわれており、その一貫として被災家族生徒の受け入れを行っていく
・被災生徒を受け入れることで、逆に本校生徒たちの思いやりの心、優しさの涵養を目指していきたい
・「震災に学ぶ」をテーマに高大連携の取り組みを生徒と教員で

21. 震災を承けて、地震の仕組みやそれに対する災害対策など、防災教育の充実が求められています。
具体的な取り組みがありましたら、お書きください。

＜マニュアル関連＞ ……合計48校
・マニュアルの再検討、見直し……16校
・震災マニュアルの検討……２校
・防災マニュアルを作成中・構築……12校
・法人防災委員会での横断的意見交換
・防災委員会を中心に教職員の意識の向上を図る
・教職員の動員・配備体制の作成
・防災士の資格を教員（１名）に取らせた……２校
・安全確保システムの構築
・災害時緊急カードの作成
・危機管理体制の確認・見直し・充実……４校
・危機管理部会の創設
・学校としての対応をまとめた「大規模災害の手引き」を作成し、保護者に配布
・マニュアルの作成後生徒・保護者に周知する
・災害に関する有資格者（救急救命士等）の増員……４校

＜防災教育関連＞ ……合計98校
・消防署や警察署等から講師を呼び、講演や実技指導を……14校
・震災教育の充実・意識付けを図った……５校

・「自らの命は自分で守る」の意識を高める避難訓練、指導 ……９校
・体育館での集会時に防災頭巾を持参
・生徒の自主判断のあり方を研究したい……２校
・「稲村の火」の授業を通し、日本人の良さや自然への畏敬心の育成
・社会、理科、道徳・総合学習等の授業に防災教育を取り入れた……31校
・学校設定の「いのち」の授業での取り組み
・避難訓練の講評の際に、活断層と直下型地震の仕組みを話す
・各教室の「地震発生時の対応について」を掲示……２校
・防災訓練として、災害内容をクイズ形式に
・陸前高田市、釜石市、宮古市の津波のあとを視察し、防災教育としてとらえることができた
・東北でボランティア活動に参加した教員の話を生徒に聞かせた……３校
・被災地に行った生徒の話を聞く講習会を開催
・文化祭で保護者・地域住民への啓蒙活動
・卒業生による現地報告会
・生徒作成の壁新聞で防災への理解を促した
・防災の日に地震や津波のメカニズムをＤＶＤで視聴し防災訓練を学ぶ
・防災教育の実施・充実……３校
・被災地から学ぶ視点で防災教育を……２校
・児童のランドセルに常時入れておく「防災ハンドブック」の作成
・防災関連の冊子・パンフレットを配布し、指導に役立てる……３校
・防災館の見学と体験……５校
・高大連携の後援会（講師は大学教授）
・全学協議会に生徒の代表も参加し、防災に関する共同学習
・学院全体（幼～大）の防災教育・防災対策委の見直し中
・学校主催の「市民講座」で、地震について取り上げ、地域住民との学習の場とした
・３/11 について話し合うフォーラムを全教職員参加で実施
・小４で防災教育　様々な災害時の行動を学ぶ
・震災災害マニュアル沿って安全教育の理解を深める
・東海地震の起きる可能性の高さを意識させる

＜津波対策関連＞ ……合計12校
・津波対策教育・避難訓練の検討・実施……４校
・津波に対する対応を再検証……２校
・津波対策として屋上・上層階への避難訓練を実施……３校
・津波対策として海沿いの公園への避難を山側の高台への避難に変更
・洪水を想定した避難訓練……２校

＜防災・避難訓練関連＞ ……合計 137校
・避難訓練をＤＶＤにとり、全校集会で指導……２校

・避難訓練の想定を火災→地震・火災に変更……４校
・避難訓練を高校単独から大学と共同に
・幼から高までの共同避難訓練……３校
・避難訓練の日程を繰り上げて実施……５校
・避難訓練や研修の充実……106校
・地震を想定した避難訓練……７校
・広域避難所までの避難訓練
・地域で実施する避難訓練への参加を促す
・避難経路の見直し……２校
・学校独自の避難場所の選定
・引き取り訓練の中で自宅までの徒歩下校を指導……２校
・訓練時にアンケートを実施し、当事者意識を高める

＜登下校時の訓練関連＞ ……合計16校
・下校をルート別に分け教員が引率
・地域別班編制の見直し……３校
・班別下校訓練を細やかに対応
・「災害時集団下校班編制」を作成
・「通学ルート確認票」を作成し、学校へも提出
・下校訓練の徹底……２校
・徒歩下校の図上訓練
・徒歩下校路の確認（途中のトイレ、公共施設）……４校
・自宅の所在場所の状況を確認させる
・地下街、車両内、コンビニ、駅等、場所ごとの対応を生徒・保護者に提示
・登下校全般（公的機関・交通関連会社等を含む）の広域的対応が必要

＜通信手段関連＞ ……合計16校
・通信手段の改善……11校
・保護者への連絡体制を保護者に認知してもらうことの徹底
・携帯電話の使用法を再検討……２校

＜備蓄品関連＞
・備蓄品の充実……23校
・発電機の設置……２校
・簡易トイレの導入
・防災用品の充実……５校
・防災頭巾を購入……２校
・学校で用意できない者を個別に準備するよう考えさせている

＜安全対策関連＞ ……合計19校
・災害対応マップ、災害対応マニュアル、フラットホイッスルの３点を常時携帯
・保護者に安全対策を呼びかけ

・学校宿泊訓練を考慮中……２校
・校舎の安全点検、耐震強化……４校
・学校施設･備品の倒壊防止対策
・教職員による危険箇所の点検
・災害後の校舎利用規則の策定
・防備面の充実
・緊急地震速報受信機を設置……６校
・地球防災への参加を呼びかけ

＜放射能関連＞ ……合計４校
・原発被害への対策
・ガイガーカウンターにより放射線量の測定
・学校敷地内の放射線量の測定
・放射能に関する講演会を実施（後援会主催）

＜その他＞
・遠隔地の姉妹校同士が情報交換できる対策本部を立ち上げる
・12月第１日曜日を防災の日とし、各区、町内の自治会の行事に参加
・災害時の臨時休校の基準を明確化
・普段からの集合･解散の訓練が肝心と痛感
・近隣自治会や市の防災担当者との会合
・生徒の精神面の検討

＜考察＞

アンケートの回答を見ていくと、防災教育の充実の一貫としての防災マニュアルや災害発生時への対策に関する回答が多かったことがまず挙げられる。

その１が、防災マニュアルの作成や見直しを挙げている学校が30校になり、マニュアルに対する関心が高まっていることを感じるとともに、多くの学校が、このような大地震や津波による災害を想定していなかったことを窺わせる。

その２は、避難訓練の見直しや教職員の防災意識の向上、災害時の対応力を高める研修の必要性を多くの学校が挙げていることである。年に１回、それも火災を想定した避難訓練しか行われていなかった学校があったり、教職員の防災意識など全く考慮されていなかったことを窺わせる回答があったことは驚きであった。事実、大きな被害を受けた学校では、その場の判断が最も重要なこととしてあげられているように、状況に応じた適切な指示を教職員の誰もが出せる対応力をつけるための研修や訓練は重要性が高い。

今回の災害で、地震による被害が小さく津波の被害も受けなかった地域の学校も、帰宅困難生徒を数多く抱え、それへの対応に追われた反省から、備蓄品の種類や数量への関心が大きく高まったことが分かる。また、登下校時の児童・生徒の安全を守る対策や教育の必要性を挙げた学校が多い。備蓄品に関しては別な項で取り上げているので、ここでは触れないが、この項での主題である児童・生徒の安全を守る対策や教育には、様々な対応が見られる。

まず挙げられるのが、いろいろな授業の中でその授業の教科との関連から地震に対する知識と理解を深め、よりよい行動がとれるように教育しようとする姿勢である。社会科や理科で地震の仕組みや地震の起きやすい地域の理解、道徳や総合的な時間での災害発生時の対応について等や先人の逸話などの学習が進められている。更に、地域の消防署や警察から講師を招き、災害時の対応や我が身の安全を守る方法を学んだり、実技を通して個々の対応力を高めようと工夫していることが見える。

中でも特筆すべきは、今最も求められている能力は、マニュアル通りに行動する能力もさることながら、その場の状況に応じた個々の判断力で行動し、自分の身の安全は自身で守る能力の育成が不可欠であることを挙げた学校が10数校あることである。防災教育の今後の視点の一つは、このあたりにあるのではないだろうか。

今回の震災は、そういった意味で被害甚大地域以外の学校でも、いかなる対応が重要かを知ったことに意味がある。東京や神奈川、静岡では実際に東海大地震が起きる可能性があることを考えれば、備えは万全を期さなくてはならないであろう。日頃から地域の自治体や地域住民との連携を図って置くことも備えの一つであろう。これらのことは、関東だけではない、日本全国どこでもいえることである。

22. 大震災発生以来７ヵ月余りを経過した今、当時を振り返って反省すべき点、また防災教育や危機管理の面で、今後の課題や教訓としたい事がありましたら、ご記入ください。

反省点

＜生徒の帰宅関連＞

・保護者との連絡なし、交通機関の情報確認なしのままで生徒を帰宅させた…５校
・交通網の脆弱さへの認識の甘さ……１校
・通学路の調査不足……１校
・下校途中帰宅困難になった生徒が学校に戻ってきたことの是非……１校

＜備蓄関連＞

・備蓄が皆無または不十分だった　質にも問題……９校

＜情報関連＞

・携帯が機能しない……１校
・緊急連絡システムが電話連絡網だけだった……１校
・災害時緊急連絡放送体制が機能しなかった……２校
・緊急電話の使用法が分かっていなかった……１校
・当日ＨＰ担当者が不在のためＨＰが活用されなかった……２校

＜マニュアル関連＞

・危機管理の甘さ……２校
・近くでの大地震を乗り越えられる体制でない……１校
・地震対応、津波対応のマニュアルがない……３校
・場当たり的な対応では何もできない……２校

・マニュアルは最悪の事態を想定しなくては……１校
・「具体的に」が反省点 ……１校

＜避難に関連＞
・余震の際の避難場所を教職員に徹底できていなかった……１校
・校庭が地盤的に避難場所に最適か……２校

＜その他＞
・心のケア……１校
・「遠方、都内でない」を理由に油断 ……２校
・３月12日に予定通り卒業式を強行した……１校

課題
＜備蓄関連＞
・備蓄品の見直し・充実……69校
・仮設トイレ準備・設置……２校
・非常電源の確保……７校
・持病薬・コンタクト入れの携行、常備……２校

＜生徒の帰宅問題・宿泊関連＞
・「帰宅させる」の原則を見直し ……１校
・生徒の帰宅方法……９校
・帰宅困難生徒への対応……３校
・生徒を学校に待機させる体制の確立……４校
・生徒の宿泊方法……７校

＜情報関連＞
・保護者や生徒との連絡方法……52校
・生徒の安否確認方法……６校
・情報伝達システムの作成……８校
・電話普通時の対応……２校
・情報収集のしやすい環境作り……１校
・情報の共有手段……１校
・携帯電話の校内持ち込み……１校
・公衆電話の復活……１校
・停電時のＰＣデータの処理……１校

＜危機管理関連＞
・教職員の危機管理意識を高める（研修等）……24校
・危機管理委員会の設置……２校
・緊急時の優先課題を決め、保護者にも周知……１校
・場面（登下校時・授業中・在宅時・休み時間等）に応じた危機管理体制……13校
・ライフラインが途絶えたときの対応策……27校

・全校生徒が在校していた場合の対応……10校
・指揮系統の確立（校長不在を考慮したものも）……15校
・学園内の横の連携……２校
・交通遮断への対応……８校
・臨機応変な対応……５校
・教職員の震災対策班の編成……３校
・教員が学校にいないまたは行けない状況での対応……１校
・保護者との連携……２校
・災害時における生徒の所在確認システム……１校
・校外引率時の対応……１校
・雪が校舎を覆っている場合の避難場所……１校
・非常持ち出し荷物の再点検……１校
・東海大地震に備えての十分な対応……３校

＜防災マニュアル関連＞
・防災マニュアルの作成、見直し……36校
・避難経路、マニュアルの見直し……７校
・震災対応の見直し……２校
・津波への対応策……３校
・二次災害への対応……１校

＜防災安全教育＞
・防災教育の重要性、徹底……13校
・避難訓練等の徹底……14校
・自ら安全を確保する能力の育成……３校
・学校周辺のマップを持たせる……１校
・登下校時の安全と連絡法に関する教育……４校
・地震と津波を念頭に置いた教育の実践……１校
・「通学マップ」の作成、携行……２校
・放射能に関する教育への取り組み……１校

＜設備・建築関連＞
・校舎の耐震対策、校舎の新築・改修……８校
・校内放送設備の見直し……１校
・ガラスの飛散防止策……２校
・エレベーター内のパニック防止策……１校
・情報処理室の上層階への移動……２校

＜避難民・避難所関連＞
・避難民の受け入れ体制……７校
・避難民と生徒との境界線……２校
・帰宅困難者（外部）への対応……３校

＜関係機関との連携＞

・自治体や自治会との連携……３校
・関係機関（消防・警察・交通機関等）との連携……６校
・学校間での帰宅困難性との受け入れ合い体制……２校

＜その他＞

・心のケア，メンタル面への配慮……３校
・安全面から、校外学習や宿泊学習等の見直し……１校
・校内にいる生徒への情報提供の程度や方法……１校
・募集減対策として県単位での私学フェア……１校
・放射線量の測定……２校
・課題解決に対する財政的裏付けに「公」の補助を……１校

教　訓

・生徒を無理に帰宅させないこと……３校
・研修、訓練の必要性……２校
・臨機応変に対応できる教員の姿勢……２校
・命を預かっている実感と命を守ることを最優先させること……２校
・想定外の事態には「冷静さ」での対応……３校
・「喉元過ぎれば……」にならぬように ……３校
・「災害は忘れた頃に……」を忘れずに ……４校
・「備えあれば……」を再確認 ……１校
・「共助・扶助」の精神の重要性 ……１校
・様々な想定で対応を講じること……３校
・自然災害に対する認識を改めた……１校
・来るべき直下型地震への備えを痛感……１校
・地震直後の避難の重要性……２校
・先人の残したものを大切に……１校
・近隣との良好な関係の大切さ……１校

考　察

他の項目でも多くの学校が問題点としてあげてきた備蓄に関する回答を、反省点としても課題としても挙げている学校がここでも多かった。次いで、情報に関する課題を多くの学校が挙げている。生徒や保護者との連絡がスムーズにとれることの重要性が改めて浮き彫りになっているといえよう。

３点目は、危機管理に関する回答が多く、４点目の防災マニュアルに関する回答と相俟って、これまで、多くの学校が「まさか」と思い十分な備えをしてきていなかったことを窺わせる。と同時に、今回の大災害が如何に大きな被害をもたらし、日本中の耳目を集めたかが分かる。

東海大地震の可能性が叫ばれていることから、今後、関東、東海地方だけでなく、日本全校で、地震や津波に対する備えと防災意識の向上や危機管理体制の万全を期する仕組み

が求められているといえよう。

また、児童・生徒の安全の確保が最優先され、多くに学校がそのための防災安全教育の重要性をあげている。なかんずく、「自らの命を自ら守る」をモットーに、その力を児童生徒に身につかせる教育の必要性が叫ばれているのではないだろうか。

１年前の東北大地震を、「他山の石」と考えている学校はないであろう。ここから学んだ多くの教訓を後の世代へ引き継ぎ続けていく使命を、我々は帯びていると思う。

23. その他、特に記述しておきたい事、訴えたいことがございましたら、ご自由にご記入ください。

＜予想される大地震への対応について＞

・何時起こるか分からない震災が起きたとき、皆が協力できる日本であってほしい。
・日頃の物心両面の準備が大切と思う。
・平常時での事故の場合を想定し有事に備えたい。
・世界的な異常気象を考えると、あらゆる天災への対応が必要だ。
・静岡県は地震と津波に対する認識を変えなくてはならない。
・静岡県は東海地震発生時に大きな被害を受けると予想されている。その意識は高まっている。生徒、職員の安全確保を最優先に、そのための準備に関する専門家の指導がほしい。
・東海地震が予想される中、今回の東北大震災は各校の防災対策に再認識を促す、大きな問題だった。

＜国・地方自治体等行政に対する要望＞

・電力供給の安定化を
・ソーラーシステム以外の発電機設置にも援助や補助を
・行政からの情報が私学にも早く伝わるよう望む。
・都から備蓄品の補助が出るのはありがたい。……４校
・その補助に「基本的に消耗品」との縛りがあるのは残念
・私学にも備品購入への補助金を切に希望
・校舎の耐震化、施設設備の充実を図るには、国や自治体からの公的資金の増額が求められる。……４校
・耐震化工事費の100％補助を協会中心に国へ働きかけてほしい。
・防災備蓄物資購入補助に関して、業者選定に苦慮している。推薦業者を決めてほしい。
・各自治体が中心となって危機意識を高めてほしい。
・公私に関係なく使用できる施設が必要。自治体との連携を密に
・都の帰宅困難者対策の実効性に疑問。学校も３日が限度で、それ以上はどうするのか。
・自治体が被災者から防災を学ぶ活動に取り組み、そのマニュアルを広報してほしい。
・ライフラインの復旧は早急に……４校
・防災対策を進めるには専従のスタッフが必要。学校設置基準の見直しを

＜交通機関に対する要望＞

・交通機関の早期稼働体制の確立を
・交通機関の確保が生徒の安全確保につながる。
・各交通機関の連携と駅を閉め切ってしまわないことを願う。
・広域から生徒が集まっている私学にとって、交通機関の確保が重要
・公共交通機関がストップした場合の代替えバスの運行を
・駅での児童生徒の安全確保を私学全体で要請していく必要がある。

＜情報関係について＞

・メディアから交通機関の状況や道路事情の情報が早く欲しい。
・情報システムは各学校が協力して構築してはどうか。阪神大震災の際、神戸の姉妹校が被害を受けた時、静岡の姉妹校が本部となり、保護者への情報発信をした。
・震災翌日以降の行事変更で、各校との情報共有に手間取った。私学として一つの窓口があればと思う。
・ニッポン放送とのより密な連携のあり方
・大阪のＡ社のメール配信システムは、安価でトラブルなし。今回も、スキー教室の帰りに震災に遭遇したが、学校からタイムリーに情報を発信できた。
・クレーマーやモンスターを作り出さない正しい情報を
・緊急時に連絡の取れない保護者が意外に多い。
・緊急時メール配信に登録しない保護者への連絡が不安
・情報発信の一元化と内容の正確さを求めたい。

＜危機管理について＞

・危機管理委員会がよく機能した。
・震災時に危機管理委員会のメンバーを、短時間にどれだけ招集できるかが課題
・生徒の安全が第一と痛感した。そのための準備は山積している。
・その場に応じた判断が下せるように組織の改革を
・災害への備えが万全だった。

火災報知器の強化	上水・中水の確保
大型自家発電装置の設置	災害時対応汚水処理槽の設置
全職員ＰＨＳ携行	ビデオカメラによる集中管理システム
校内ＣＡＴＶ網による強制放送 SYSTEM	

・校舎の頑強さが確認できたので、校舎中心の災害対策を考えていく。
・学校に宿泊できる体制を作る。
・２日以上宿泊に対応できる準備に悩む。
・備蓄品の充実は課題
・校内に防災倉庫があり心強い。
・“いつ”“どこで”怪我人のいる状況に出会っても、誰もが救急救命措置を行えるようにしている。
・常に危機感を持って臨みたい。
・幹線道路の通行が不可となれば、備蓄の重要性が増す。

・校内の連絡には、トランシーバー、無線機が有効だった。
・日常における非常時の備えの大切さを痛感
・防災教育と避難訓練の重要性の認識を
・何時起きるか分からない災害なので、その場にいる教職員の意思統一が重要
・災害は突然訪れることや予想外の被害をもたらすことから、普段の用意と心構えを忘れず、十分な体制を確保したい。
・今回の震災後に改定されたマニュアルがあれば見たい。
・防災マニュアル、備蓄物資等について基本方針が示されると安心できる。
・今回は生徒を学校に止めることを原則とし、親の迎えがあった場合のみ引き渡したが、「近くだから帰して」という保護者がいた。留守宅の安全が確認できないとの理由で断ったが、今後はどうするか。
・全校生徒在校時のシミュレーションを早急に実施したい。
・生徒を最優先に考えられる教員の養成・指導が必要か。

＜防災教育について＞
・実際に救援に当たった専門家（消防・警察・自衛隊・行政）の方で講演してもらえる方を紹介してほしい。
・「自分の身は自分で守る」「自分の地域はみんなで守る」の啓発が必要……２校
・一人でいる児童生徒には、自分で判断できる生徒を育てたい。……２校
・他人に言動に左右されず自ら判断できる生徒を育てるにはどうしたらよいか。
・今回の津波の被害の実態を風化させない防災教育を
・最後は自分の心構え次第だと覚悟させたい。
・我々教員は震災で得た多くの教訓を伝えていかなければならない。
・震災や原発事故が企業活動や産業に与えた影響や国境をも越えた人間同士の共感や連帯感等を、子供たちにしっかり理解させ、如何に関わっていくか考えさせたい。
・何を信じていいのか、どう生徒に話したらよいかが問われている。

＜学校間の連携について＞
・登下校中の震災に備え、どこの学校の生徒でも受け入れる、学校間の連携が必要だ。……３校
・公立とも連携し、沿線マップを協会の指導で作れないか。
・家族で避難方法を話し合っておくよう強く指導した。

＜学校と地域社会との連携について＞
・地域、家庭との連携が必要だ。
・学校単位の対応だけでなく、地域社会との連携が必要。行政による改革指導も期待
・地域自治会との合同防災訓練が本校を会場に実施された。地域住民への対応を今後も考えていきたい。
・年に１回、本校を避難場所とする地区の自主防災会長と本校担当者との話し合いをしている。

＜原発事故に関連して＞

・国民が安心して暮らせる状況を早急に。
・原発事故についての情報が入らず、対応できなかった。
・保護者から放射線量測定の要求が多いが、行政の対応は公立のみに向いている。
・放射線量等の迅速かつ正確な情報の公開を。
・放射能測定器を全校に配布してほしい。
・原発の安全性を高めてほしい。
・原発事故の際に、放射能物質の拡散が心配されるため、生徒を速やかに帰宅させるようとの指示が県教委から公立校になされたが、緊急時こそ冷静で確かな情報を伝えてほしい。
・放射能に関する保護者の質問に説明できるために、研修会に参加した。
・原発事故による強制避難生を受け入れている。

＜学校の備えについて＞

・災害時に使用できる物が、“どこに”“どれぐらい”あるのかの把握が必要。
・不特定多数の部外者が集まる文化祭等の時に地震が発生したら、どう対応するか苦慮している。何かいい方法があれば教えてほしい。
・過去の事例に学び、対策案を練っていく教員が各校に必要では。
・校内に東日本大震災対策本部を設置し多くをこなした。被災地支援　節電協力　当日の対応等
・修学旅行、海外研修への対応
・入試期間中に震災に見舞われたらどうするか。自校実施が可能か、日程は、外部会場での実施が可能かなど

＜避難所について＞

・避難住民への対応に苦慮した。……４校
・地域の避難所でもあるので、対応に関して行政との連絡を密にしたい。
・避難所として体育館が指定されている。地域の住民からは防災の拠点として頼られている。
・生徒を守ることと人道的に避難民を受け入れることとの検討が必要

＜アンケートについて＞

・アンケートの集計結果を今後の体制作りの参考として活用したい。……４校
・以前送られてきた、都内私立小の対応策が大変参考になった。
・都、中高協会からの情報が役立っている。

＜被災者に対する想い＞

・被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。……２校
・被災された方々に深く同情するとともに、明日は我が身と心得て日頃から対策を講じたい。
・どのような形でボランティア活動ができるか検討したい。……２校
・震災での被災者、原発事故での被害者の想いが風化しないよう、長い年月支援していかなくてはならない。

＜その他＞

・２度の震度６の地震を受けたが、校舎だけでも残ってよかった。
・ガソリン不足により教職員の移動が大変だった。
・ＬＰガス、軽油等の燃料をある程度確保できれば。
・携帯電話の持ち込みを許可した。ただし、校内では電源ＯＦＦ。
・早く日本全体が普通の状態に戻れることを願っている。
・震災後の日本を再生させるには、教育の力が不可欠だ。
・指揮の先頭に立ち２日間を過ごし書きたいことは山ほどあるが、今こうして生きていることに感謝。
・自然の力を実感するとともに畏怖の念を持った。子供たちを守る最大限の対策を
・救助活動に当たられた方々に感謝の思いを伝えたい。
・国内始め世界中の人々の「つながり」を強く感じた。